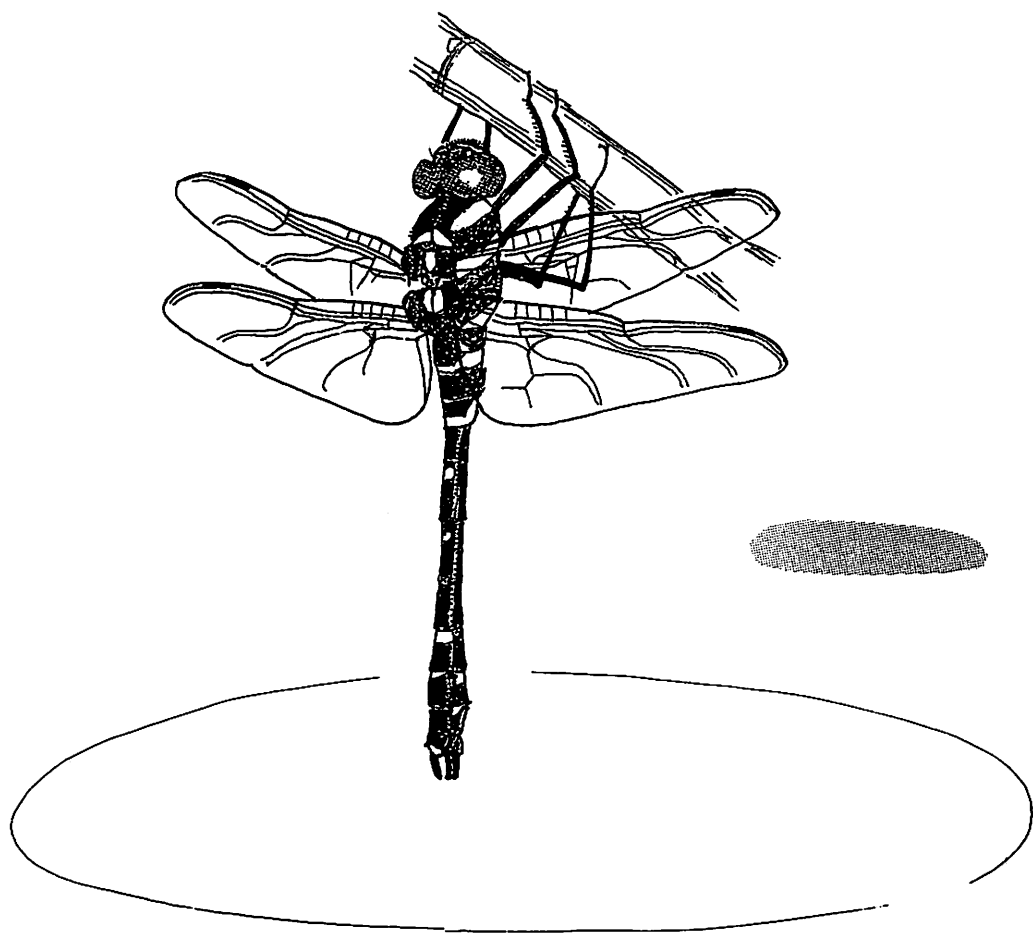


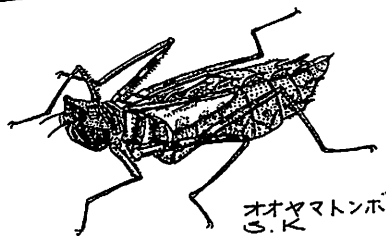
まべりはむし

第24巻 第1号



1996年 5月

兵庫昆虫同好会



兵庫県の水棲甲虫に関する文献目録(2)*

高橋 寿郎

50. 氷ノ山調査団(1958) 氷ノ山の昆虫及び植物.
Natura(15):17-19.
クロズマメゲンゴロウの記録あり.
51. 安達鉄美(1958) 本年度(1957)新しく記録された甲虫.
Natura(15):87-88.
タテナミゲンゴロウ 市島町 VII.1957. 記録はあるが標本はなかったものとある=ルイスツブゲンゴロウ.
52. 堀田 久(1959) 淡路島産甲虫目録(2).
兵庫生物 3(5):376-378.
ゲンゴロウ科4種. クロゲンゴロウ, チビゲンゴロウ, シマゲンゴロウ, ツブゲンゴロウ.
ミズスマシ科 オオミズスマシの記録あり.
53. 中根猛彦(1959) 日本の甲虫(45).
新昆虫 12(1):56-62.
日本産ゲンゴロウ科の総説であるが本文の中でムカシゲンゴロウ 姫路市近傍の井戸から採集されたとの記あり.
54. 中根猛彦(1959) 日本の甲虫(47).
新昆虫 12(7/8):47-52.
ゲンゴロウ科の総説である. メクラゲンゴロウ(姫路市近傍の井戸より), *ssp. miurai* S.Uéno(柏原産), コセスジゲンゴロウ(摂津, 1♂)の記録がある.
55. 高橋 匡(1959) 氷ノ山の甲虫.
Natura(16):28-42.
56. 村上雅昭(1960) 扇ノ山の甲虫.
Natura(17):33-35.
ツブゲンゴロウの記録あり.
クロズマメゲンゴロウ, チビゲンゴロウの記録あり.
57. 高橋 匡(1961) 氷上郡昆虫目録追加(第2報).
Natura(18):66-74.
キベリマメゲンゴロウ氷上町犬岡の記録あり.
58. J.B.Browne & M.Sato(1962) On the Japanese species of the Genus *Hydrochus* Leach (Coleoptera, Hydrochidae).
Nipponius 1(19):1-6.
p.4-6. *Hydrochus japonicus* Sharp の西宮からの記録がある.
59. 長田高校生物研究会甲虫班(1962) 六甲山系甲虫類目録(II).
Shida(10):11-20.
ミズスマシ科ミズスマシ, ゲンゴロウ科ハイイログゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ
上記3種 須磨区妙法寺での記録.
60. 山本義丸・高橋 匡(1962) 氷上郡昆虫目録追補(第1集)
p.5 キベリマメゲンゴロウ 氷上町犬岡 21.
VII.1960.
61. 山本茂信(1962) 妙見山資料館奉納 妙見山昆虫採集目録.
ガムシが記録されている.
62. 辻 啓介(1963) 但馬扇ノ山甲虫目録(1).
兵庫農大生物研究部々誌(3):24-47.
ミズスマシ科ミズスマシの記録あり.

* 兵庫県甲虫相資料・314

63. 高橋 匡(1963) 出石郡昆虫目録(第1報).

VITA(兵庫県立出石高校科学部生物班会誌)

(1):1-34.

次のような水棲甲虫の記録がある.

p.12.

コガシラミズムシ科1種. コガシラミズムシ.

ゲンゴロウ科12種. ケシゲンゴロウ, チビゲンゴ

ロウ, ツブゲンゴロウ, アヤナミツブゲンゴロウ=シャープツブゲンゴロウ, モンキマメゲンゴロウ, ヒメゲンゴロウ, ハイイロゲンゴロウ, シマゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ, ゲンゴロウ, クロゲンゴロウ, マルガタゲンゴロウ.

ミズスマシ科2種. オオミズスマシ, ミズスマシ.

ガムシ科14種. セマルガムシ, キバネケシガムシ, ウスモンケシガムシ, アカケシガムシ, セマルケシガムシ, マグソガムシ, シジミガムシ, キイロヒラタガムシ, ヒメガムシ, ガムシ, コガムシ, ゴマフガムシ, トゲバゴマフガムシ, マメガムシ.

ナガドロムシ科1種. ナガドロムシ.

ヒメドロムシ科5種. キスジミゾドロムシ, イブシミゾドロムシ, クロサワドロムシ, ケベリナガアシドロムシ, アワツヤドロムシ.

64. 後藤光男(1963) 篠山川のドロムシ.

ねじればね 8(2):1

次の記録がある.

ヒラタドロムシ科1種. ヒラタドロムシ.

ホソドロムシ科7種. キスジミゾドロムシ, ミヤモトミゾドロムシ, イブシミゾドロムシ, ツヤナガアシドロムシ, ミゾツヤドロムシ, ヒメツヤドロムシ, マルツヤドロムシ.

65. 高橋 匡(1965) 出石郡昆虫目録(第2報).

VITA(2):1-16.

次の記録あり.

ゲンゴロウ科4種. コツブゲンゴロウ, セスジゲンゴロウ, マダラスジゲンゴロウ, マルケシゲ

ンゴロウ.

ガムシ科1種. タマガムシ.

66. 佐々木基之(1969) 甲陵中学附近の甲虫類.

甲陵生物(4):8-14.

p.13. ガムシ科. ヒメガムシ, キイロヒラタガムシの2種記録あり.

67. 仲田元亮(1970) 「能勢の昆虫(甲虫)」

B5.107p. (自刊)

水棲甲虫が次のごとく多く記録されている.

p.14-15.

ゲンゴロウ科6種. コシマゲンゴロウ, モンキマメゲンゴロウ, チビゲンゴロウ, ヒメゲンゴロウ, ツブゲンゴロウ, アヤナミツブゲンゴロウ=シャープツブゲンゴロウ.

ミズスマシ科1種. オオミズスマシ.

p.15-16.

ガムシ科11種.

ガムシ, コガムシ, ヒメガムシ, トゲバゴマフガムシ, セマルガムシ, ウスモンケシガムシ, キバネケシガムシ, セマルケシガムシ, チビヒラタガムシ, アカケシガムシ, キイロヒラタガムシ.

p.38.

ヒラタドロムシ科2種.

ヒラタドロムシ, ヒゲナガチビヒラタドロムシ.

ドロムシ科1種. ムナビロツヤドロムシ.

p.39.

ヒメドロムシ科3種.

ケベリナガアシドロムシ, アワツヤドロムシ, キスジミゾドロムシ.

68. 辻 啓介・岸田剛二(1972) 但馬扇ノ山の甲虫目録.

扇ノ山周辺の動物(1):20-48. 兵庫県自然保護協会調査資料第1集.

次の水棲甲虫の記録がある.

- ミズスマシ科1種。ミズスマシ。
 ゲンゴロウ科2種。ニセケシゲンゴロウ=学名
Hyphydrus paromoeus Guignot からしてケシゲ
 ンゴロウ *H. japonicus* Sharp と考える。、チビ
 ゲンゴロウ。
 ガムシ科2種。キベリヒラタガムシ、トゲバゴマ
 フガムシ。
 ヒラタドロムシ科1種。クシヒゲマルヒラタドロ
 ムシ。
 ヒメドロムシ科1種。キスジミゾドロムシ。
69. 久松定成ほか(1973) 本四架橋ルートの島々
 の昆虫相。
 本州四国連絡架橋の伴う周辺地域の自然環境
 保全のための調査報告書。学術調査編pp.80-
 90。
 次の淡路島からの水棲甲虫の記録がある。
 コガシラミズムシ科1種。コガシラミズムシ。
 ゲンゴロウ科4種。チビゲンゴロウ、ツブゲンゴ
 ロウ、タテナミツブゲンゴロウ=ルイスツブゲ
 ンゴロウ、アヤナミツブゲンゴロウ=シャープ
 ツブゲンゴロウ。
 ミズスマシ科2種。オオミズスマシ、ミズスマシ。
 ガムシ科2種。コケシガムシ、ヒメガムシ。
70. 西村 登・原 昌久(1974) 加古川水系の底
 生動物相とその現存量ならびにそれに基づく生
 物学的水質判定結果。
 加古川水系底生動物調査報告書。B5.64p。
 (兵庫県生活部刊)
 加古川流域における水棲甲虫次の記録がある。
 ヒラタドロムシ科2種。ヒメヒラタドロムシ、マ
 スダチビヒラタドロムシ。
 ヒメドロムシ科1種。 *Stenelmis flavovittatus*
71. 高橋寿郎(1974) 中国山脈東端の昆虫目録。
 甲虫。
 東中国山地自然環境調査報告：197-223。

- 水棲甲虫類として次のごとく記録した。
 p.199。
 コガシラミズムシ科1種。コガシラミズムシ
 ゲンゴロウ科8種。ニセケシゲンゴロウ=ケシゲ
 ンゴロウ、チビゲンゴロウ、ツブゲンゴロウ、
 セスジゲンゴロウ、クロズマメゲンゴロウ、ヒ
 メゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、マルガタゲ
 ンゴロウ。
 ミズスマシ科1種。ミズスマシ。
 ガムシ科4種。ウスモンケシガムシ、スジヒラタ
 ガムシ、キベリヒラタガムシ、トゲバゴマフガ
 ムシ。
 ドロムシ科1種。ムナビロツヤドロムシ。
 ヒメドロムシ科1種。キスジミゾドロムシ。
72. 久松定成ほか(1974) 本四架橋ルートの島々
 の昆虫相。
 本州四国連絡橋に伴う周辺地域の自然環境保
 全のための調査報告書(その2)。学術調査編
 pp.75-96。
 淡路島から次の水棲甲虫が記録されている。
 ゲンゴロウ科2種。モンキマメゲンゴロウの一種、
 コシマゲンゴロウ。
 ミズスマシ科1種。ヒメミズスマシ。
73. 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録
 (第1報):1-54。
 兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊。
 但馬地方産の昆虫標本のリストである。採集地、
 月日、採集者名が各種についている。次のように
 水棲甲虫のリストがある。
 コガシラミズムシ科1種。コガシラミズムシ。
 ゲンゴロウ科8種。チビゲンゴロウ、ツブゲンゴ
 ロウ、タテナミツブゲンゴロウ=ルイスツブゲ
 ンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロ
 ウ、コシマゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、
 クロゲンゴロウ。
 ミズスマシ科1種。ミズスマシ。

ガムシ科8種。セマルガムシ、キイロヒラタガムシ、ヒメガムシ、ガムシ、コガムシ、ゴマフガムシ、ホソゴマフガムシ、マメガムシ。
 ナガドロムシ科1種。ナガドロムシ。
 ヒメドロムシ科1種。クロサワドロムシ。

74. 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第2報):55-66.

兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊。

前報の続きでゲンゴロウ科1種。ゲンゴロウの記録がある。

75. 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第3報):1-24.

兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊。

前報の続きでゲンゴロウ科1種。シマゲンゴロウの記録がある。

76. 西村 登・西村好治郎・中村広義・井上弁三(1975) 兵庫県円山川水系底生動物調査報告書。

近畿地方建設局豊岡工事事務所。B5.114p.

円山川水系で採集出来る甲虫4種の記録があるが、水棲甲虫と考えられるものは次の1種である。即ち、マズダチビドロムシ。

77. 高田敏雄(1976) 伊丹の水生動物。B6.200p. 伊丹市自然シリーズ(伊丹市立教育研究所)

次の水棲甲虫の記録あり。

ゲンゴロウ科3種。ハイイロゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、モンキマメゲンゴロウ。

ミズスマシ科2種。ミズスマシ、オオミズスマシ。

ガムシ科4種。ガムシ、コガムシ、ヒメガムシ、タマガムシ。

78. 奥谷禎一(1976) 広域基幹林道予定地域自然環境調査報告書 IV。昆虫類調査 pp.57-73.

(兵庫県農林部治山課刊)

播磨中部高原地域基幹林道として多可郡下の加美町三谷、市原、鳥羽の甲虫類を調査とりまとめ

た。担当は高橋寿郎。その中で次の水棲甲虫が記録されている。

ガムシ科9種。コケンガムシ、アカケンガムシ、キバネケンガムシ、ケンガムシ、マグソガムシ、コウセンマルケンガムシ、ケンヒラタガムシ、コガムシ、マメガムシ。

79. 高橋寿郎(1976) 淡路島の甲虫相。

Parnassius(16):3-9.

本報告でゲンゴロウ科のスジゲンゴロウを特に取りあげている(この記録は関,1945 によるものである)。

80. 堀田 久(1976) 先山の昆虫相(1)。

Parnassius(16):11-32.

ミズスマシ科2種。オオミズスマシ、ミズスマシの記録がある。

81. 高橋 匡(1976) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第4報)。B5,1-20.

兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊。

水棲甲虫として次の記録がある。

ゲンゴロウ科5種。ホソセスジゲンゴロウ、クロズマメゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、スジゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ。

ガムシ科1種。マグソガムシ。

82. 伊丹市立博物館(1977) 昆陽池生物目録。B5, 36p.

次の水棲甲虫の記録がある。

ゲンゴロウ科2種。ツブゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ。

ミズスマシ科1種。ミズスマシ。

ガムシ科5種。スジヒラタガムシ、キイロヒラタガムシ、ヒメガムシ、トゲバゴマフガムシ、タマガムシ。

83. 佐藤正孝(1977) 日本産ミズスマシ科概説(3)。甲虫ニュース(39):1-4.

ミズスマシ、兵庫、長崎を原産地として記載された日本で最も普通のミズスマシであると解説されている。さらに、Zaitzev(1910)はV. Pliginskiが1909年8月20日神戸で得たとする標本で、*Orectochilus corniger*と*O. nipponensis*の2種を記載したが、これらの種が日本で発見される見通しはほとんどないとのべている。

84. 広地 昇・奈良隆史・木戸和伸(1977) 三熊山の昆虫について。

Parnassius(17):5-28.

水棲甲虫が次のように記録されている。

コガシラミズムシ科1種。コガシラミズムシ。
ゲンゴロウ科5種。チビゲンゴロウ、ツブゲンゴロウ、タテナミツブゲンゴロウ=ルイスツブゲンゴロウ、アヤナミツブゲンゴロウ=シャープツブゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ。
ミズスマシ科1種。ヒメミズスマシ。
ガムシ科1種。ヒメガムシ。

85. 仲井啓郎(1977) 竹田川の昆虫。

ひかみ(丹波自然友の会)(9):104-109.

ゲンゴロウ科コシマゲンゴロウの記録あり。

86. 堀田 久(1978) 淡路島産昆虫類採集記録。

Parnassius(18):4-16.

淡路島で採集された甲虫類の中で次の水棲甲虫の記録がある。

ゲンゴロウ科2種。ハイイロゲンゴロウ、ウスイロシマゲンゴロウ。
ガムシ科1種。ヒメガムシ。

87. 高橋寿郎(1978) 兵庫県神崎郡大河内町川上～砥峯地区の甲虫相。

大河内地点自然環境実態調査報告書.p.56-61.

ガムシ科セマルケシガムシの記録がある。

88. 堀田 久(1978) 淡路島産昆虫採集記録(II)。

Parnassius(19):10-14.

淡路島で採集された甲虫類の中で次の水棲甲虫の記録がある。

ゲンゴロウ科3種。マルコガタノゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ。

ガムシ科3種。シジミガムシ、コガムシ、キイロヒラタガムシ。

89. 仲田元亮(1978) 能勢の昆虫I. B5.405p.

(自刊・単行本)

能勢、川西市内における次記のごとく多くの水棲甲虫の記録がある。

ゲンゴロウ科8種。チビゲンゴロウ、ツブゲンゴロウ、アヤナミツブゲンゴロウ=シャープツブゲンゴロウ、モンキマメゲンゴロウ、キベリクロヒメゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ。

ミズスマシ科2種。オオミズスマシ、ミズスマシ。
ガムシ科20種。セマルガムシ、ウスモンケシガムシ、キバネケシガムシ、アカケシガムシ、ケシガムシ、マグソガムシ、ホソケシガムシ、セマルケシガムシ、シジミガムシ、スジヒラタガムシ、キイロヒラタガムシ、マルヒラタガムシ、チビヒラタガムシ、ヒメガムシ、オオヒメガムシ、ガムシ、コガムシ、ゴマフガムシ、トゲバゴマフガムシ、マメガムシ。

ナガドROMシ科1種。タテスジナガドROMシ。

ドROMシ科1種。ムナビロツヤドROMシ。

ヒメドROMシ科5種。キスジミゾドROMシ、アシナガミゾドROMシ、イブシミゾドROMシ、キベリナガアシドROMシ、アワツヤドROMシ。

90. 高橋 匡(1978) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第5報)

兵庫県立豊岡高等学校生物教室 B5.14p.

次の水棲甲虫の記録がある。

ガムシ科1種。ヒメゴマフガムシ。

ヒメドROMシ科2種。キベリナガアシドROMシ、アワツヤドROMシ。

91. 仲田元亮(1979) 「能勢の昆虫」その後(2).
きべりはむし 7(2):16-28.
次の水棲甲虫の記録あり。
ゲンゴロウ科2種。ニセケシゲンゴロウ=ケシゲンゴロウ, マルケシゲンゴロウ。
ホソガムシ科1種。ヤマトホソガムシ。
ガムシ科1種。タマガムシ。
チビドロムシ科1種。オオメホソチビドロムシ。
92. ホームサービス(株)(1979) 阪神高速・白川台(妙法寺)の昆虫・予報。
ガムシ科ホソケシガムシの記録がある。
93. 高橋寿郎(1980) 県下の注目すべき昆虫。
鳥と自然(16):8-14。
ムカシゲンゴロウ, メクラゲンゴロウについて解説。
94. (株)都市緑地研究所(1980) 神戸市道高速道路2号線生態系調査業務(その1, その2)。B5. 130p。
ガムシ科1種。キバネケシガムシ, ミズスマシ科オオミズスマシの記録がある。
95. 仲田元亮(1980) 「能勢の昆虫」その後。
きべりはむし 8(2):18-21。
ゲンゴロウ科1種。ゲンゴロウが記録されている。
96. 阪口浩平(1981) 図説 世界の昆虫 5. ユーラシア編。A4. 264p. (保育社・大阪)
pl. 21, f. 5, p. 85. メクラゲンゴロウ, 柏原産。
pl. 21, 挿図A~C, p. 85. ムカシゲンゴロウ。
相生市, 姫路市, 太子町, 矢田部の産地記録。
97. 上田尚志(1981) 家島群島の昆虫(2).
きべりはむし 9(1):9-18。
ゲンゴロウ科1種。ハイイロゲンゴロウが記録されている。
98. 西村 登(1981) 兵庫県円山川水系, 八木川の底生動物。
関宮町史資料集第3巻:272-332。
ヒラタドロムシ科2種。ヒラタドロムシ, マスダドロムシ=マスダヒラタドロムシが記録されている。
99. 木下賢司(1982) 自宅附近の燈火で採集した昆虫あれこれ。
IRATSUME(6):77-79。
豊岡市弥栄町での記録である。
ガムシ科3種。ガムシ, コガムシ, ヒメガムシ。
ゲンゴロウ科5種。ゲンゴロウ, ハイイロゲンゴロウ, ヒメゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ, キベリヒメゲンゴロウ=キベリクロヒメゲンゴロウ。
100. 大阪の昆虫をしらべる会(1982) 能勢・初谷川の水生昆虫の幼虫しらべ。
Nature Study 28(8):7-9。
初谷川の上流部(大阪府豊能郡豊能町吉川)と中流部(川西市笹部)での調査の結果である。甲虫ではモンキマメゲンゴロウ, ミズスマシ, アワツヤドロムシ *Zaitzevia awana*, ゲンジボタルと記録されているが, ゲンジボタル以外は上流部で得られているようである。
101. 淡路自然研究保護連合会編(1982) 島の生きものたち(淡路の生物誌)
神戸新聞出版センター刊。
p. 44-45. オオミズスマシ, ミズスマシについて写真をつけて解説がある。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

オオセンチコガネとセンチコガネ*

—兵庫県での分布を中心として—

高橋 寿郎

日本産センチコガネ属(Genus *Geotrupes*)は現在4種が知られているが、そのうちの2種、オオシマセンチコガネ *Geotrupes oshimanus* Fairmaire, 1895 とヤクルリセンチコガネ *G. yaku* Tsukamoto, 1958 は前者が奄美大島、徳之島、後者が屋久島に産する種で、北海道、本州、四国、九州に産するのは表題のようにオオセンチコガネ *G. auratus* Motschulsky, 1857 (Fig.1) とセンチコガネ *G. laevistriatus* Motschulsky, 1857 (Fig.2) の2種だけである。

兵庫県にもこの2種を産する。かつて筆者が淡路島のセンチコガネを述べたことがある(1979)。

その際、兵庫県下の分布についても言及した。

その後若干の時間も経ているし新知見も加わっているので、再度県下での分布を眺めてみることにした。

オオセンチコガネとセンチコガネは Motschulsky, V. I. (以下敬称略)によって記載された種で

(1857)、江崎悌三によると(1952)この Motschulskyの論文は1854~1855年に下田へ来た Putiatinと共に同地に滞留した Goschewitch の採集品で記載されたもので、鞘翅目24種の記載と共に Radasehkovski の *Vespa* の一種の記載を含み、別に蝶蛾類数十種の目録がついている。

即ちオオセンチコガネとセンチコガネは、下田で採集された標本で学名を与えられたのではないかと考えられる。この両種は初めに述べたように北海道、本州、四国、九州に広く分布しており、塚本珪一は詳しく分布地を府県別に文献名と共に示されている(1986)。

ただ、この両種が北海道、千島列島、サハリンに分布している記録がどのようにあるのか、貧弱な筆者の所有文献で調べてみたところ、次のような記録を見ることが出来た。

まず、Waterhouse (1875) はセンチコガネを日本とセレベスに産すとし、オオセンチコガネは日



Fig.1

Geotrupes laevistriatus Motschulsky, 1857

センチコガネ 神戸市有馬温泉(21.VIII.1958)

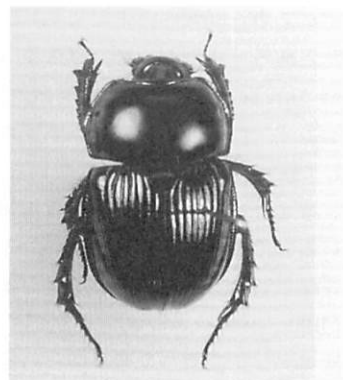


Fig.2

Geotrupes auratus Motschulsky, 1857

オオセンチコガネ 多可郡三谷(13.IX.1975)

*兵庫県甲虫相資料・315

本とダットン地方(Tartary—東欧からアジアにわたる地方)に産すとしている。Tartary は具体的な産地が示されていなく、よくわからない。前のセレベスは後に Lewis は誤りであるとされている(1895)。Boucomont の W. Junk の Cat. では(1912)、オオセンチコガネの分布は Japan, Ost-sibirien, Ostchina (日本, 東シベリア, 東中国)となっている。この論文の中で Waterhouse は函館、横浜とセレベス産でオオセンチコガネから別けて *Geotrupes* (*Phelotrupes*) *purpurascens* Waterhouse を新種として記載した。この種は、現在ではオオセンチコガネと扱われている。ここでのセレベス産は誤りである(Lewis, 1895)(Schönfeldt, H.V. 1887 の目録では Hagi, Hiogo, Hakodate, Yokohama を産地に独立種に扱っている)。

松村松年はセンチコガネ、オーセンチコガネ、ムラサキセンチコガネを北海道から記録しているが(1894, 1895)、残念ながら具体的な産地とか産出状況が全く示されていない。

G. Lewis は *G. purpurascens* はオオセンチコガネと同一種であると扱い(1875)、日本国中に普通にいるとして函館近くの Nanai (七飯)において1880年9月17日に非常に多くの個体に出会い、その時の日記によると50個体ほどの集まりがいくらか見られたとある。またセンチコガネを Ketoi, one of the Kurile Islands から記録している。

G. purpurascens は、横山桐郎はムラサキセンチコガネとして独立種でカラー図説している(1930)。

そして、オオセンチコガネの分布は本州とのみになっている。小林桂助(賢三)は、1931年千島の色丹島に採集に行き、そこでセンチコガネを得て記録した(1931, 1991)。

鹿野忠雄はセンチコガネを千島の色丹島、計吐夷島で記録した(1934, 1935)。さらに層雲峡に記録もあり(1936)、国後島の記録もある(1937)。松岡勝輝はセンチコガネを奥尻島から記録(1937)、野村 鎮は樺太の真岡、喜美内でセンチコガネを記録した(1938)。

柳田 勇は函館近傍でセンチコガネ、オオセンチコガネを記録(1939)、後藤光男はミドリセンチコガネ *f. viridiaurea* Nakane を札幌円山(♂)で記録(1956)、桑山 覚はセンチコガネを色丹島、国後島、オオセンチコガネを国後島で記録(1957)、Kryvolustkaja の記録にはセンチコガネ、オオセンチコガネが含まれている(1973)。利尻島からセンチコガネが早稲田大学の調査隊によって記録されている(1980)。澤村京一は羅臼岳、斜里岳(知床半島)からセンチコガネを記録(1985)。保田信紀は上川町(大雪山、石狩川源流地域)でセンチコガネ(豊原牧場、黒岳)を記録している(1985)。平間裕介は根室支庁厚岸郡霧多布湿原でオオセンチコガネが三番沢林道で2♀の1例のみ、センチコガネは風潤林道、三番沢林道、散布、若山沼線林道と数多くの例を示している(1993)。

こうして見てくると、センチコガネは樺太、千島列島、北海道各地に分布していて個体数もそこそこいる種のように思われる。一方、オオセンチコガネの方は千島列島の国後島の記録があるが、北海道の記録地点が意外とない。但し、Lewis が述べたように函館付近には非常に多くいる記録が残っていたりして、今一つその産出状況がよくわからない。後藤光男は札幌円山からミドリセンチコガネの記録をしている(1956)。

最近、日高支庁浦河郡浦河産の1♂♀(14.VI. 1990)を入手したが、♂の方はミドリセンチコガネであり、♀の方は *ab. purpurascens* Waterhouse に当たると思われる(この取扱いがよいのかどうか若干疑問で、*typica* に入れるのがよいのかかもしれないが、かなり赤紫がはっきりとしたもので、わけて考えても良いのかかもしれない)。こうして見てくると、北海道にはオオセンチコガネの方が広く分布していても不思議ではないのだが、

本州に見られるルリセンチコガネに該当する型が北海道に見つかっていないようだが、こちらも或いはいるのかもしれない。

最近北朝鮮産(N. Korea near Pyongyang)オオ

センチコガネ 1♂, 2♀, ロシア極東 Black Mts. (?) 産オオセンチコガネ 2♀の標本を入手した。

色彩からすれば赤紫色を呈し、特にロシア産は美しい赤紫色でオオセンチコガネとは思われないような色彩をしている。或いは *Geotrupes amoenu* Jacobsohn に当たるのではと思われたが、こちらの亜属の特徴、触角球稜部第2節は他の2節に包まれ、閉じた際周縁が完全に見えないというのではなく、触角球稜部第2節は他の2節に包まれず閉じた際も周縁が完全に露出していて、いずれもオオセンチコガネと同定出来るものであった。これほど色彩の明らかに違うオオセンチコガネが朝鮮半島、シベリアあたりに分布しているのかどうか、またこのような色彩のものが北海道あたりにいないのだろうか。

さらに、この北鮮産と色彩の全く似たセンチコガネ 1♀が長崎県壱岐郡石田町久喜触(3.May.19-93)で採集された人から直接お送り頂いた。これも非常に珍しい色彩をしている。横山博士が1930年に原色図説されたムラサキセンチコガネの色彩とよく似ていて、より紫色がはっきりしている。

この地域も含めて北海道あたりの調査をもっとすることが必要だと考える。最近山谷文仁・草刈広一による上杉博物館々蔵昆虫目録というのを見ると(1995)、オオセンチコガネは山形県、岩手県その他の産地のものはあるが北海道産がない。センチコガネの方は山形、宮城、青森、秋田県産のものもあるが北海道の礼文島、利尻島、稚内市、様似町、北見市、丸瀬布町、苫小牧市、千歳市美々、駒里と多くの個体が保管されており、北海道ではセンチコガネが圧倒的に多いように感じる。

センチコガネ

樺太・真岡・喜美内(野村, 1938)

千島(Kryvolustkaja, 1973), 色丹島(小林,

1931, 1991. 鹿野, 1934, 1935), 計吐夷島(Lewis, 1895. 鹿野, 1934, 1935), 国後島(鹿野, 1937. 桑山, 1957)

北海道(松村, 1894, 1895), 層雲峡(鹿野,

1936), 利尻島(早稲田, 1980), 知床半島, 羅臼岳, 斜里岳(澤村, 1985), 上川町(大雪山, 石狩川源流)(保田, 1985), 風潤林道, 三番沢林道, 散布, 若山沼線林道(霧多布湿原)(平間, 1993)

オオセンチコガネ

千島(Kryvolustkaja, 1973), 国後島(桑山, 1957)

北海道, 函館附近七飯(Lewis, 1895), 函館近傍(柳田, 1939), 三番沢林道(霧多布湿原)(平間, 1993)

ミドリセンチコガネ

札幌円山(後藤, 1956)

次に、兵庫県下における2種の分布状況であるが、オオセンチコガネは G.Lewis が1867(慶応3)年から1872(明治5)年にかけて日本に滞在し採集をしている(G.Lewis は1864年と1865年にも日本に立寄っているが、お茶を扱う商会の代表としての訪日で、両年においては採集などはしていないようである)。この期間中の1871年に神戸で採集した1♂標本(Fig.3, Fig.4)が1992年大英博物館より日本甲虫学会を経て兵庫県立人と自然の博物館へ寄贈された。非常にきれいな標本で筆者も実物を見せて貰ったが、今から124年前に神戸で採集されたものとは思われないような美しいものであった。この標本は同館の沢田佳久博士に写して頂いている(写真参照)、その頃神戸市内にはオオセンチコガネがいたのであろうと考えられる。

1874年には Dr. Rein が同じく神戸(Hiogo)でオオセンチコガネを採集、それを L.V.Heyden が記録している(1879)。戦前神戸市内での記録は他にも3件程ある。ムラサキセンチコガネとして記録されているものは、当時オオセンチコガネともセンチコガネともよくわからない色彩のものであったと思われるが、少なくとも戦前は神戸市内にオオセンチコガネを産したであろうことは間違いないと思う。ダイコクコガネでさえ当時神戸市内



Fig.3

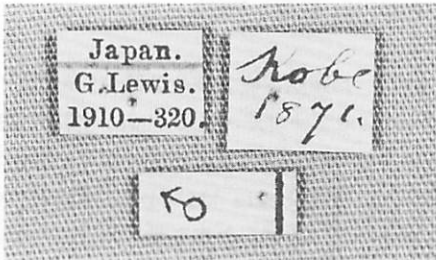


Fig.4

G.Lewis が1871年神戸で採集したオオセンチコガネ *Geotrupes auratus* Motshulsky, 1857 の標本(♂)。この標本は大英博物館より日本甲虫学会の手を経て兵庫県立人と自然の博物館へ寄贈された。G.Lewis が日本で最初に採集した甲虫類8点のうちの1点である。大変きれいな標本で、ラベルにあるごとく1870年代には神戸附近には本種はいたようであるが、現在では生息しているかどうか疑問である。写真撮影は、人と自然の博物館の沢田佳久博士の手を煩わせた。厚くお礼申し上げます。

で見られたのであるから。

オオセンチコガネは兵庫県下では中央部から北の方に多く産するようと思われるが、姫路市内でも最近得られているのだから、かなり分布は広いようと思われる。かつて多可郡下でバケツ一杯もの採集が出来たといった夢のような話は現在では無理だと思われるが、筆者が1992年に揖保郡下でトラップを設置したところ、かなりの個体を得られたことなど、まだ場所によってはわりと生息し

ている場所があるのかもしれない。

センチコガネの方はもっと広く分布している。かつて平野幸彦が記しているように(1988)、食性が極めて広いといったことがこの種の生活力の強さを知ることが出来るように思われる。ここで2種の県下でわかっている産地の地名を次に示しておく(地図参照)。

オオセンチコガネ：川西市妙見山上。Hiogo。神戸市御影、摩耶山。多可郡三谷、三国岳、千が峯。朝来郡山東町遠阪峠。揖保郡新宮町福原。姫路市林田町中構。相生市三濃山。宍粟郡山崎町川戸。氷上郡神楽、篠ヶ峯、葛野、芦田、幸世。出石郡神美村。城崎郡神鍋山。養父郡妙見山。

センチコガネ：津名郡岩屋。洲本市先山、曲田山、中川原町、三熊山。三原郡諭鶴羽山。川辺郡猪



兵庫県におけるオオセンチコガネとセンチコガネの分布概念図

▲ オオセンチコガネ ○ センチコガネ

名川町上阿古谷, 槻並. 川西市一の鳥居, 妙見山, 笹部, 新滝道. 宝塚市売布が丘. 西宮市船坂. 神戸市御影, 摩耶山, 山の街, 再度山, 妙法寺, 藍那, 鈴蘭台大山公園, 有馬. 明石市明石公園. 三木市細川中. 神崎郡大山村, 大河内町砥峯. 揖保郡新宮町福原. 鷄籠山. 相生市三濃山. 佐用郡上月. 宍粟郡水谷, 赤西. 多紀郡篠山町雨石山. 氷上郡山南町. 出石郡神美村, 但東町口藤. 出石町奥山茗荷谷. 城崎郡神鍋山. 豊岡市妙楽寺, 三開山. 養父郡氷ノ山. 美方郡村岡町輝山. 美方高原. 扇ノ山.

最近, 京都の保賀昭雄が中心となってオオセンチコガネ, センチコガネの生態, 生活史などが詳しく調べられている(1931, 1983, 1987, 1991).

<参考文献>

- 兵庫県に関係ある文献は拙著“兵庫県産甲虫類に関する文献目録, 1975, 1980” “追加編 I, 1984” “追加編 II, 1995”を参照されたい.
- A. Boucomont(1912) W. Junk Coleopterum Catalogus Pars. 46: Scarabaeidae: Taurocerastinae, Geotrupinae.
- Classification of Insects of Far East USSR Vol. 1 III-1. Coleoptera Archostemata-Polyphaga(1989).
- 江崎悌三(1952) 日本昆虫学史話
新昆虫 5(11):21-29.
- 藤岡昌介(1991) Geotrupes amoenus Jacobsohn について [日本産コガネムシ類に関する考察(3)] 甲虫ニュース(93):1-2.
- 後藤光男(1955) 原色日本昆虫図鑑 甲虫篇増補改訂版(保育社・大阪) pl. 30, f. 636-639.
- 後藤光男(1956) 三重県におけるオオセンチコガネ2型の分布について
昆虫学評論 7(2):44.
- 林 長閑(1959) 日本幼虫図鑑(北隆館・東京)
- L. V. Heyden(1879) Die coleopterologische Ausbeute des Prof. Dr. Rein in Japan 1874-1875.
Deut. Ent. Zeit. XXIII, Heft. II:321-365.
- 平間裕介(1993) 霧多布湿原昆虫類採集目録. 鞘翅目. p. 119-120.
「霧多布湿原の昆虫」Sylvicola 別冊
- 平野幸彦(1988) センチコガネは何故普通種か - 食性からの考察 -
LAMELLICORNIA (4):23.
- 人見一馬(1935) キンイロセンチコガネの奇習
昆虫界 3(13):77
- 保賀昭雄(1987) オオセンチコガネとセンチコガネの生活
インセクトリウム24(7):18-22.
- 保賀昭雄(1991) オオセンチコガネの仲間
京都の昆虫: 89-92(京都新聞社・京都)
- 石田正明・藤岡昌介(1988) 日本産コガネムシ主
科目録(第一版 補訂版)
LAMELLICORNIA 別冊 2:1-62.
- Jacobsohn, G. (1893) Ein neuer Geotrupes aus Japan.
Horae Soc. ent. Ross. 27(1892-1893):120-121.
- 加藤正世(1933) 分類原色日本昆虫図鑑 第八輯
鞘翅目 I (厚生閣・東京) pl. 38, f. 1, 3, 5, 8.
- 加藤正世(1933) キンイロセンチコガネ玉を転す
昆虫界 1(1):23.
- 加藤正世(1991) 甲虫
昆虫界 2(11):pl. 76, f. 19, 21.
- 鹿野忠雄(1934) 北千島産甲虫類
北千島生物相: 91-121. (日本生物地理学会刊)
- C. W. Kim(1978) Distribution Atlas of Insects of Korea. Series 2 Coleoptera (pl. XXXII, GEOI p. 315.)
- H. Kōno(1935) Die Lamellicornien aus den Kurilen. Ins. Mats., 9(4):162-165.
- 小林桂助(賢三)(1931) 千島国色丹島の採集品に就て
関西昆虫学会々報(2):59-66.

- 小林桂助(1991) 色丹島の島と昆虫
島と自然(62):1-17.
- Kryvolustkaja, G.O. (1973) Entom fauna of the Kurile Islands.
- 黒沢良彦(1991) キタセンチコガネについて
甲虫ニュース(95):9-10.
- 桑山 覚(1957) 南千島昆虫誌(北農会刊・札幌)
- G.Lewis (1895) On the Lamellicorn Coleoptera of Japan, and Notices of others.
Ann. Mag. Nat. Hist. Ser.6, Vol.XVI:374-408.
- 益本仁雄(1967) 日本産コガネムシ類解説〔食糞群〕II
昆虫と自然 2(2):31-34.
- 益本仁雄(1973) フン虫の採集と観察
(ニューサイエンス社・東京)
- 益本仁雄(1985) 原色日本甲虫図鑑(II) pl.64, f.1,2. (保育社・大阪)
- Masumoto, K. (1995) New or Little-known Geotrupine Species (Coleoptera, Geotrupidae) from Central and Western China.
Spec. Bull. Jpn. Soc. Coleopterol., Tokyo (4):381-387.
- 松村松年(1894) 北海道鞘翅類(続き)
動物学雑誌 6(65):84-97.
- Matsumura, M. (1895) Catalogue of Coleoptera Collected in Hokkaido by M. Matsumura.
動物学雑誌 7(86):51-65.
- 松村松年(1931) 日本昆虫大図鑑
(乃江書院・東京)(p.313)
- 松村松年(1931) 日本通俗昆虫図説 第三巻 甲虫之部 (春陽堂・東京)
pl.29, f.21, p.126, 181, センチコガネ♀とあるも(カラー図説)この図はセンチコガネではない。
- 松岡勝輝(1937) 北海道奥尻島に於いて獲たる甲虫類 昆虫界 5(39):52-58.
- Medvedev, S.N. (1952) Larve of Lamellicornin (Col.) of U.S.S.R.
- ミドリセンチコガネ生態研究会(1981) ミドリセンチコガネ生態調査報告書 p.1-45, 22f. 2phot. (京都市滑掃局埋立地建設室)
- ミドリセンチコガネ生態研究会(1983) ミドリセンチコガネ生態調査報告書 p.1-31, 3f. 3表 (京都市滑掃局埋立地建設室)
- Motschulsky, V.I. (1857) Insectes du Japon. Etudes entomologiques, tome 6:25-41.
- 三宅義一(1956) 白水・松田両氏採集の屋久島産 鯨角類 北九州昆虫趣味の会々誌(5):13-16.
- 三宅義一(1961) 糞虫について(1)
KORASANA 1(3):2-5.
- 三宅義一(1966) 糞虫の飼い方
大和の昆虫(3・4):26-30.
- 三輪勇四郎・中條道夫(1939) 日本産鞘翅目分類目録 pars.5 金龜子虫科(野田書店・台北)
- 水野辰司(1964) 日本産センチコガネ類の地理的変異 遺伝 18(9):24-27, 1pl.
- 水田国康(1966) 糞虫の卵巣 - 予報 -
大和の昆虫(3・4):10-11.
- 水田国康(1966) 糞虫飼育のすすめ
大和の昆虫(3・4):25-26.
- 永丘智郎(1950) センチコガネの格闘 — その観察例 新昆虫 3(7・8):29-30.
- 中根猛彦(1952) 日本のこがねむし(II)
昆虫学評論 6(3):21-24.
- 中根猛彦(1963) 原色昆虫大図鑑II・甲虫
pl.56, f.1,2, p.111. (北隆館・東京)
- 新島善直(1932) 日本昆虫大図鑑
p.483, f.340. (北隆館・東京)
- 新島善直・中根猛彦(1950) 日本昆虫図鑑
改定版 p.1310, f.3781. (北隆館・東京)
- 野村 鑽(1938) 樺太産ダイコクコガネ群に就て
日本の甲虫 2(2):81-85.
- Nomura, S. (1960) List of the Japanese Scarabaeoidea (Coleoptera)
Tōhō Gakuho (10):39-79.

- Reitter, E. (1892) Bestimmungs-Tabeller der Lucaniden und coprophagen Lamellicornen des palaearktischen Faunengebietes. Verh. natur. Ver. Brün. XXIV, Heft.:1-230.
- 李 景科(1992) 中国東北甲虫誌(A6, p.205)
- 利尻島動植物調査昆虫班(1980) 利尻島の昆虫類 早稲田生物 (22):56-68.
- 澤村京一(1985) 羅臼岳・斜里岳の甲虫類 早稲田生物 (28):51-58.
- Schönfeldt, H.V. (1887) Catalog der Coleopteren von Japan mit Angabe der bezuglichen Besreibungen und der sicher bekannten Fundorte. Jahrb. d. nass-Ver.f. Naturkunde 40:31-224.
- 高橋寿郎(1979) 淡路島のセンチコガネ *Parnassius* (20):5-9.
- 谷 幸三(1966) 糞虫成虫個体群の生態学的研究 大和の昆虫 (3-4):3-10.
- 塚本珪一(1957) オオセンチコガネの分布について 京都昆虫同好会 3(2):1.
- 塚本珪一(1970) 食糞性コガネムシ群についての考察 I -問題点と分類のパターン- Bull. Heian High School No.15:1-15, Tab. I-II.
- 塚本珪一(1973) 食糞性コガネムシ群についての考察 II -Family Geotrupidae- Bull. Heian High School, (17):25-46, 10pls.
- 塚本珪一(1985) 日本産食糞性コガネムシ類目録 京都府私学研究論集 (23):1-25.
- 塚本珪一(1986) 日本産食糞性コガネムシ類の分布より考察した糞処理能力についての研究 Bull. Heian High School, (30):1-36, 2pls.
- 塚本珪一(1986) 日本産糞虫文献目録(I) Pap. Ent. pres. Nakane, Tokyo, pp.149-180.
- 塚本珪一(1987) 日本産食糞性コガネムシ類分布資料(2) Bull. Heian High Scol Kyoto, (31):25-70.
- 塚本珪一(1988) 日本産食糞性コガネムシ類の検索表 京都府私学研究論集 (26):31-47.
- 塚本珪一(1994) 日本糞虫記(育土社・東京)
- 塚本珪一(1995) フン虫地理学 ユリイカ 27(10):160-166.
- C.O. Waterhouse (1875) On the Lamellicorn Coleoptera of Japan. Trans. ent. Soc. London, Part. I :71-116, pl. III
- 渡辺弘之(1978) 奈良のシカと糞虫 土壌動物の世界 p.151-163. (東海大学出版会・東京)
- 山田米男(1952) 本邦産センチコガネの生態 昆虫の科学 1(1):10-11.
- 山谷文仁・草刈広一(1995) 上杉博物館館蔵昆虫目録(41). 甲虫目(食糞性コガネムシ類) ファウナウキタム No.42:319-328.
- 柳田 勇(1939) 函館山近傍産鞘翅目に就いて 昆虫界 7(67):516-524.
- 保田信紀(1985) 上川町(大雪山・石狩川源流地域の昆虫類第X報 総目録) 上川町の自然生物目録集:111-167.
- 饒平名智郎(1936) ムラサキセンチコガネに就きて 虫の世界 1(5-6):12-14.
- 饒平名智郎・内田恒美(1936) 玉を転すセンチコガネの観察 虫の世界 1(7-8):28-30.
- 横山桐郎(1930) 日本の甲虫 pl.13, f.2,4,6, p.104-106.(西ヶ原刊行会・東京)
- Zunino, M. (1984) Sistematica generica dei Geotrupinae (Coleoptera, Scarabaeoidea, Geotrupidae), flogenesi della sottofamigliae considerazioni biogeografiche. Bull. Mus. reg. Sci. nat. Torino, 2:9-162. (TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

兵庫県のスジボソヤマキチョウ

広畑政巳

1. はじめに

県下ではメスジロキチョウ、ウラナミシロチョウ、ウスキシロチョウ、タイワンモンシロチョウの迷蝶4種を含め12種のシロチョウ科の蝶が採集されている。その中でも本種は生息地が限定されるものの比較的広く分布しているものと考えられていたが、採集記録をまとめてみると、ことの外報告が少なく、分布の空白地域が目立っている。

これは本種が地域変異、個体変異が少なく関心を持つ同好者が少ないことに起因しているものと思われる。

採集記録をまとめるに当たり同好の方々に記録を聞いてみると、採集や目撃記録もかなり出てくることから、まだまだ多くの採集記録が未発表のままになっていると思われる。本稿ではこれまでに発表された採集記録と未発表の記録、そして筆者の数少ない知見も併せてまとめてみたが中途半端なものになってしまい、問題提起程度にとどまった。この点は御容赦願ひ不足分を補っていただきたいと思う次第である。

2. 県下に於ける分布の概要

本種の県下に於ける最初の採集記録は山本(1971)によると1907年にヤマキチョウの名で佐用郡下から得られたとの報告がある。

筆者の知る限りでは県下で90数カ所で本種が採集及び目撃されている。その分布域は、川西市、猪名川町など県下南東部の限られた地域と、上郡町から佐用町にかけての南西部、そして豊岡市、温泉町、日高町、村岡町など北部の地域から多くの記録が報告されている。

しかし、西脇市など東播磨地域、丹波地域、山崎町から養父町にかけての中部地域からの採集記録は少なく散見するにとどまっている(図1)。

丹波地域からは丹波昆虫同好会(1957)に本種が記録されており、「3月下旬から出現し年1回の

発生」と記述されており、西紀町東樹之部以外に記録もあるように思われる。

南限の記録は赤穂市尾崎、神戸市山の街、摩耶山又は六甲山があるが、摩耶山、六甲山の記録は兵庫県立神戸高校生物研究会の会誌 MAIMAI に六甲山、摩耶山の蝶として発表されており、「六甲山系での記録は多いがまだお目にかかったことはない(発表者は)」となっている。

山本(1971)によると六甲山からは未知となっており、その後筆者の知る限りでは生息が確認されたという話は聞かない。六甲山系の記録同様赤穂市からもその後記録はない。

食樹のコバノクロウメモドキは群落で生育しているところは少ないが、比較的広く分布しており、これまで採集記録のない地域からも食樹の生育が知られているので本種が生息していても不思議ではない。

垂直分布は赤穂市尾崎や豊岡市栃江、宮井、上月町上秋里など標高100m前後の低山地から氷ノ山や扇ノ山のように1,000mを越す山地まで見られるが、100~300mにかけての生息地が分布の中心となっている。

県下の採集記録を各産地ごとに1例ずつあげると次の通りになる。地名の表示が同一場所で別名で報告されていることがあり、次の記録の中にもこの例があると思われるがそのまま記載している。

<採集記録>

神戸市摩耶山,六甲山 ¹⁾	-	-	-
〃 北区山の街 1♂	23-IX-1952	加藤昌宏 ³³⁾	
川西市黒川(妙見新滝) 1♂2♀	24-X-1993	大東康人	
〃 多田 ²⁾	-	-	-
〃 笹部	18-X-1981	仲田 ¹²⁾	
猪名川町上阿古谷 1♀	26-III-1986	黒田 ¹⁸⁾ ²⁾ ¹²⁾	
〃 三草山	23-IX-1972	小坂利明 ⁴⁾	
〃 木間生 ²⁾	-	-	-

猪名川町槻並	-	15-IV-1979	小坂 ¹²⁾
〃 栃原	-	30-VI-1984	〃
〃 民田	10♂3♀	21-V-1981	- ¹⁵⁾
西脇市出合	-	- - 1964	高瀬康男
加美町三国岳 ¹⁷⁾	-	-	-
福崎町 ²⁸⁾ 七穂山	-	-	森下泰治
大河内町峰山	1♂	23-VII-1962	岩村 ²¹⁾
安富町三坂	-	-	木村三郎
〃 関	1♀	15-VII-1962	尾崎 勇
波賀町水谷	1♂	20-VII-1986	二宗 ¹⁶⁾
〃 道谷	3♂1♀	3-X-1982	広畑政巳
〃 音水	2♂	28-IX-1961	尾崎 勇
〃 原	-	-	相坂耕作
〃 赤西溪谷	-	-	花岡 正
千種町鷹巣	1♂	12-VII-1981	広畑政巳
相生市三濃山	4♂1♀	28-VII-1965	米村 ²³⁾
赤穂市尾崎	1♀	6-IX-1963	北条 ²³⁾
上郡町鍋倉	1♂	30-III-1963	岩村 ²³⁾
〃 大杉野	1♀	3-X-1966	米村 ²³⁾
〃 富満	1♂	30-IX-1975	相坂耕作
〃 鞍居	-	29-III-1963	石垣 ²³⁾
〃 白旗山	1♀	8-X-1967	豆鞆 ²³⁾
〃 大鳴溪谷	1♂1♀	11-X-1993	大東康人
〃 黒石	-	-	花岡 正
佐用町上石井	2♂	16-VI-1974	森下泰治
〃 下石井	2♂	16-VI-1974	広畑政巳
〃 若洲	2♂	22-VI-1980	〃
〃 育木	1♂	23-VI-1963	岩村 巖
〃 日名倉山	2♂1♀	14-VII-1969	尾崎 勇
〃 海内	-	-	黒田 収
三日月町大畑	1♀	11-X-1995	唐土洋一
上月町久崎	1♂	16-VI-1962	岩村 ²¹⁾
〃 西新宿	1♂	25-IX-1995	高島 ¹¹⁾
〃 上秋里	2♂2♀	24-VI-1984	墨谷 ¹⁸⁾
〃 下秋里	-	19-VI-1984	竹内 亮
〃 櫛田 卵	-	-	花岡 正
和田山町玉置	1ex.	30-III-1984	山崎 ¹⁴⁾
生野町栃原ロッジ	1♂	18-VI-1963	西村 ²²⁾
八鹿町妙見山 ⁷⁾	-	-	-

関宮町杉ヶ沢高原	1♂	26-VI-1977	広畑政巳
〃 鉢伏山	-	5-VII-1981	竹内 亮
〃 氷ノ山東尾根	1♂	25-VII-1986	永幡嘉之
豊岡市伊賀谷	1♂	15-X-1989	宮垣 ¹⁰⁾
〃 栃江	1♂	2-X-1991	〃
〃 妙楽寺	1♂	2-X-1978	木下 ¹⁴⁾
〃 宮井	1♀	14-IV-1980	〃
〃 赤石	2♂	17-X-1983	前平 ¹⁴⁾
〃 下鶴井 ⁷⁾	-	-	-
出石町東床ノ尾山	1♂	1-VII-1977	木下 ¹⁴⁾
城崎町来日	1♂	19-VI-1975	木下 ¹⁴⁾
〃 来日岳山頂	2♂	2-IX-1980	木下 ¹⁴⁾
日高町神鍋山	1♂(撮)	21-VI-1991	木下賢司
〃 三川山頂上	1♂	6-V-1995	大竹隆明
〃 金谷	1♀	25-VI-1963	木下 ¹⁴⁾
〃 栃本	1♂	27-VI-1980	福井 ¹⁴⁾
〃 名色林道	1♀	26-VII-1985	木下 ¹⁴⁾
〃 大岡山	1♂	28-VI-1963	木下 ¹⁴⁾
〃 蘇武岳 ⁷⁾	-	-	-

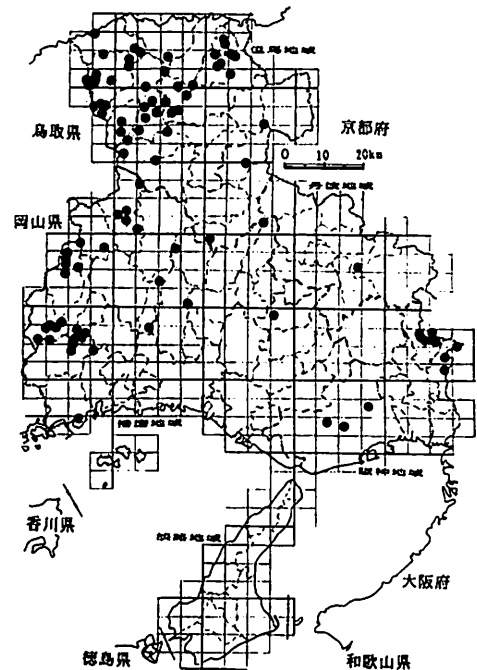


図1 兵庫県に於けるスジボソヤマキチョウの分布

日高町阿瀬溪谷	5卵	25-IV-1982	広畑政巳
香住町三川	1♀(目)	5-IV-1994	永幡嘉之
浜坂町城山	1ex.	9-VII-1986	黒井 ⁹⁾
〃 久斗山	1♂(目)	3-IV-1993	永幡嘉之
〃 本谷	1♂(目)	19-IV-1993	〃
美方町鍛冶屋	2♀	21-IV-1992	〃
〃 氷ノ山	1♂	4-VIII-1946	山本 ²⁰⁾
〃 備	1♂	30-IX-1995	永幡嘉之
温泉町上山高原	1♀	29-VI-1991	永幡 ¹³⁾
〃 美原	1ex.	4-VII-1981	黒井 ¹⁴⁾
〃 畑ヶ平	2♂1♀	11-VII-1984	前平 ¹⁴⁾
〃 蒲生峠	1ex.	16-VI-1985	黒井 ¹⁴⁾
〃 霧ヶ滝	1♂	29-IV-1992	永幡嘉之
〃 槍尾	1♂	18-IV-1992	〃
〃 扇ノ山小ヅッコ	1♂1♀	27-VII-1992	〃
〃 後山	1♂(撮)	20-IX-1993	〃
〃 丹土	1♂(撮)	21-X-1993	〃
〃 伊角	1♂(目)	20-IV-1993	〃
〃 牛が峰山山頂	1♀(目)	20-IV-1993	〃
〃 越坂	1♀(目)	20-IV-1993	〃
〃 内山	1♂(目)	18-III-1994	〃
〃 千谷	1♀(目)	18-III-1994	〃
村岡町燿山	1♂	7-VII-1981	福井 ¹⁴⁾
〃 大笹	2♂	3-VII-1984	木下 ¹⁴⁾
〃 兎和野高原	-	1-VII-1984	竹内 亮
〃 和佐父	1♂	18-VI-1992	永幡嘉之

村岡町神坂	1♂	16-IV-1993	永幡嘉之
〃 村岡	1♂(目)	19-IX-1993	〃
西紀町東樹之部	-	-	壇野 薫

3. 成虫の活動と休眠について

本種の生息場所は当然のことながら食樹の生育する溪流沿いの雑木林とその周辺が多くなるが、雑木林から離れた草原や山頂付近でも見られるようになりにくい生活範囲をもっている。

成虫は表2でもわかるように越冬後低山地では3月中旬ごろから現れ、5月まで越冬個体が見られる。新成虫の発生は6月の中旬からで、7月上旬ごろまで成虫は活動する。その後県下でも9月中旬ごろまでは姿が見られず、その間の成虫の状況について確認されたという報告はないが、夏眠しているものと考えられている。

山地では4月中旬ごろ越冬個体が見れ、5月上旬ごろまで見られる。新成虫の発生は6月中旬ごろからになり(表1)、発生後夏眠することなく7月~10月上旬ごろまで活動するものと思われる。

福田(1975)によると越冬後の個体に見られる裏面のそばかす状のしみが、低山地の秋の個体の裏面にはすでに認められ、山地の秋の個体にはしみが見られないことから、低山地では夏眠によってしみがつき、山地では夏眠をしないのでつかないと推測している。

表1 山地に於ける月別採集件数

月性	3	4	5	6	7	8	9	10
♂		2 4	2	4 6	10 4 5	1 1	1 1 3	1
♀		3 1		3	1 3		1 1	

表2 低山地に於ける月別採集件数

月性	3	4	5	6	7	8	9	10
♂	2 4	3 5 1	1	7 8	4 1		1 4 9	8 9 3
♀	1 1		1	1 4	2 1		2 3	2 1

県下の場合しみの確認はできていないが、低山地では7月下旬～8月の活動が確認されていないこと、山地への季節移動が確認されていないことから夏眠していることは疑いない。

本種は飛翔力も強く移動は容易であると考えられるので、真夏には低山地から涼しい山地に、秋には逆に山地から低山地に移動する個体があるのではないかと思ひ、図2の通り月別、標高別の採集件数のグラフを作成してみた。この表を見る限り水平方向への移動はともかくとして季節による垂直方向への移動を決定づけるものは見あたらない。

産卵時期は香住町三川で4月上旬に観察されているが、4月中～下旬にかけて行われるのを多く確認している。

成虫の吸蜜植物はオカトラノオ¹²⁾、オトコエシ¹²⁾、ソバ¹²⁾、ケイトウ¹²⁾、ヨシノアザミ⁴⁾、ノアザミ、ツワブキなどがある。

休眠のメカニズム、交尾の時期、成虫の季節移動など生態面の課題はつきないが、まだ充分研究もされておらず、判らないことの方が多い。今後

これらの課題の解明が期待される。

4. おわりに

県下の本種の分布を中心にまとめてみたが、地図上にプロットしてみると空白地帯が目立ち、調査ができていないことを痛感した。分布だけをとっても不十分な報告になったが、この資料を本種の基礎資料として不足分を補っていただきたい。

本稿が本種の生活史の解明の一助になれば幸いである。

本稿を草するに当り、但馬地方の多くの採集記録をご提供いただいた永幡嘉之氏に御礼を申し上げます。また次の方々には何かと御協力を賜った。

ここに記して御礼申し上げます。

近藤伸一、大東康人、相坂耕作、竹内 亮、徳岡正巳、高橋邦明、唐土洋一、木村三郎、西 隆広、花岡 正、黒田 取、小野克己、尾崎 勇、岩村 巖、浅田 卓、墨谷 健、谷川勝彦、稲田和久、山下剛史、森下泰治、木下賢司(順不同・敬称略)

<参考文献>

- 1) 田中利典(1969)六甲山, 摩耶山の蝶 MAIMAI (1):3
- 2) 夏秋 優(1981)初谷のスジボソヤマキチョウ Crude(22):5
- 3) 有田 宥(1984)三草山における蝶相及び環境の変遷 Crude(25):5
- 4) 仲田元亮(1982)能勢の昆虫 自刊
- 5) 木下賢司(1979)床ノ尾山の蝶 IRATSUME(3):24
- 6) 島田真輔(1982)美方町の蝶 IRATSUME(6):26
- 7) 高橋 匡(1979)但馬地方昆虫目録 IRATSUME(3):44
- 9) 黒井和之(1988)浜坂町城山の蝶類 IRATSUME(12):12
- 10) 宮垣友洋(1995)豊岡市で採集した蝶・トンボ IRATSUME(19):28
- 11) 高島 昭(1995)上月町で採集した蝶2種の記録 きべりはむし23(2):36
- 12) 小坂利明(1994)猪名川流域の蝶 詩画工房・大阪

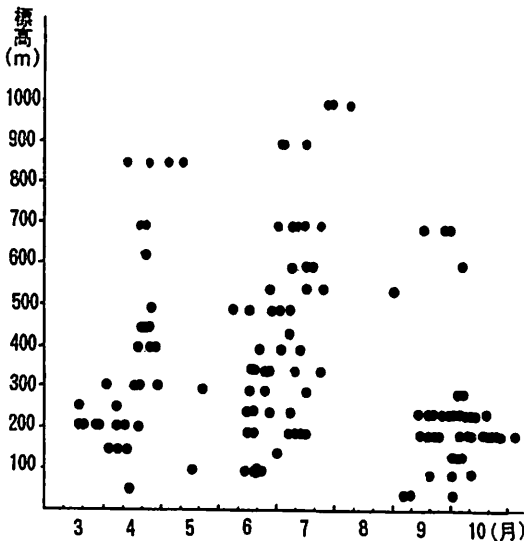


図2 標高別月別採集件数

- 13) 永橋嘉之(1992)夏の訪れ、兵庫の屋根・奥但馬にて 因幡のむし(27):53
- 14) 木下賢司・前平照雄・福井丈嗣(1986)但馬地域の蝶類目録 IRATSUME(10):63
- 15) 大阪昆虫同好会(1989)北摂の蝶
- 16) 二宗誠治(1987)昆虫研第1回調査会報告 ホシミスジ(1):3
- 17) 山口福男(1985)朝来群山市立自然公園の昆虫 朝来群山市立自然公園及び周辺地域の自然環境調査報告 兵庫県新観光課
- 18) 京都大学蝶類研究会(1987)日本産蝶類239種類の記録(上) SPINDA(2):26
- 19) 山本広一(1971)兵庫の蝶相 月刊むし(3):4
- 20) 山本広一・吉阪道雄(1958)兵庫県産蝶類目録(1) 兵庫生物3(4):235
- 21) 岩村 巖・中谷貴寿(1964)兵庫県における蝶類分布資料(3) 兵庫生物4(5):242
- 22) 西村公夫(1967)播州高原の蝶類について 兵庫生物5(3/4):226
- 23) 岩村 巖(1968)西播の蝶分布資料(5) 兵庫生物5(5):388-389
- 24) 石井為久(1980)福崎町の蝶 てんとうむし(6):26
- 25) 蝶研出版(1996)蝶類採集情報総集編
- 26) 渡辺通人(1989)ヤマキチョウ属についての疑問 日本の生物(3):61-68
- 27) 福田晴夫ほか(1982)原色日本蝶類生態図鑑 保育社 大阪
- 29) 丹波昆虫研究会(1957)丹波の蝶 丹波昆虫(3):7
- 30) 福田善明(1975)スジボソヤマキチョウの休眠に関する生理・生態について 栃木県の蝶124-127
- 31) 川元 裕(1993)1992年度採集記録 因幡のむし(28):16-18
- 32) 永橋嘉之(1994)但馬の蝶6題 IRATSUME(18):1-4
- 33) 加藤昌宏(1981)神戸の蝶 神戸市立教育研究所神戸
- (HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台3-11-8)

オオルリボシヤンマの採集記録

蛭田 永規

昨年(1995)の夏から秋にかけては、主にタガメ、ゲンゴロウを探し回っていた。今では、ほとんど見られなくなった彼らにもう一度会いたくて、もし会うことが出来たら、そこがどのような環境にあるのか確かめたかった。

結局、昨年(1995)の夏は彼らと会うことは出来なかったが、その代わりにオオルリボシヤンマ *Aeshna nigroflava* Martin と生まれて初めて出会うことが出来たので報告する。

1995.9.24(日) 1♀(単産卵)

多可郡黒田庄町門柳

当地は、東はりま日時計の丘公園から1.5キロ北東へ行った標高150mの位置にあり、木立に覆われた約20㎡ほどの薄暗い小さな池である。(現在、農業用としては役に立っていないと思われる=いつ

潰されてもおかしくはない)

周辺は、谷地形を利用した水田地帯で、農業用のため池もある。(このため池で、同日シマゲンゴロウを採集した。3♀)

周辺の山は、ヒノキの植林、アカマツの二次林が広がっており、人の生活によって生み出された里山の景観が残っている。日当たりの良い開けた環境を好み、トンボの代名詞ともいえるギンヤンマとは対照的に昼間でも薄暗い環境のもとで人知れず産卵している雌の姿を見ていると、人にとっては価値の低い薄暗い小さな池でも里山の整備をしていく上では重要な要素として位置づける必要があるのではないかとあらためて感じた。

他には、オオアオイトトンボ(連結産卵)、タカネトンボ(縄張り占有飛行)、マユタテアカネ、リヌアカネを同日確認した。

(HIRUTA HISAKI 姫路市飾磨区阿成字黒石22-3 県職員住宅212号)

北摂周辺のトゲアシクビボソハムシとスゲクビボソハムシ

森 和夫

トゲアシクビボソハムシとスゲクビボソハムシは共に *Lema* 属のハムシであるが、図鑑等によると、いずれも稀な種として記載されている。筆者は、後述する北摂地区の数ヶ所において、この2種の生息を確認した。

これらの生息地では、共にイボクサを食草として混生し、個体数も多い。また、不十分なデータではあるが飼育することもできたので報告する。

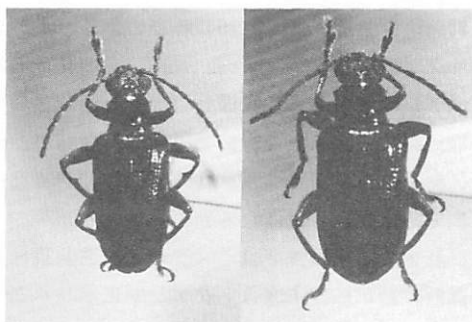
1. 2種の概要

① トゲアシクビボソハムシ *Lema coronata* BALY

体長5~6mm程度。外観は、ルリクビボソハムシ *Lema cirsicola* CHŪJŌ やキバラルリクビボソハムシ *Lema concinnipennis* BALY に似ている。

本種は、中肢の脛節中央内側にトゲ状の突起があり、また、頭部に赤紋を有する等によって他種から区別できる。トゲ状の突起は、♂の場合は顕著であるが、♀では目立たず、脛節の内側がわずかにふくらむ程度である。体色は、通常メタリックな黒青色であるが、かなり変異があり、中には黒色の個体も見られる。体形は、♀の方が♂よりも体長、肩巾ともにひと回り大きい。

本種の兵庫県下における記録に関しては、高橋寿郎氏が「きべりはむしVol.18, No.2 (1990)」に取りまとめておられる。この報告によると、これまでのところ6ヶ所から若干の個体数が得られているに過ぎない(この中には筆者が神戸市藍那で採集した記録も掲載して頂いている)。また、北摂地区関連の出版物としては、仲田元亮氏の著書である「能勢の昆虫」(1982)と、宝塚市教育委員会発行の「宝塚の昆虫」(1992~1996)がよくまとめられている。「能勢の昆虫」では、兵庫県側の川西市や川辺郡猪名川町も範疇に含まれているがこの中に本種の記載は無い。「宝塚の昆虫」においては、保育社刊・原色日本昆虫図鑑(上)のもの



♂

♀

トゲアシクビボソハムシ

Lema coronata

川西市一庫 12.VIII.1995 本人採集

と考えられる後藤光男氏のデータ(1950)が引用されているだけである。

食草は、これまで筆者が見たどの資料でも「ツユクサ」となっている。しかし、本種はツユクサにも産卵し育ちはするが、後述する調査の結果から見ても、明らかに「イボクサ」が主要な食草であると考えられる。食草と生息環境が判明した後は、意外と身近な場所でも、次々と生息を確認することができた。成虫で越冬し、5~10月の間に成虫の活動している姿が見られる。

② スゲクビボソハムシ *Lema dilecta* BALY

体長は3.5~4.5mm程度。前種に似ているが小型であり、中肢のトゲ状突起は無い。上翅には多数の強い点刻が並び、目立つ。体色は、前種と同様な黒青色であるが、黒色の個体もある。肢の色は変異が多く、通常は黒色で脛節の付け根が黄褐色のものが多く、中にはほとんど黄褐色の個体もある。頭部には赤色の紋がある。

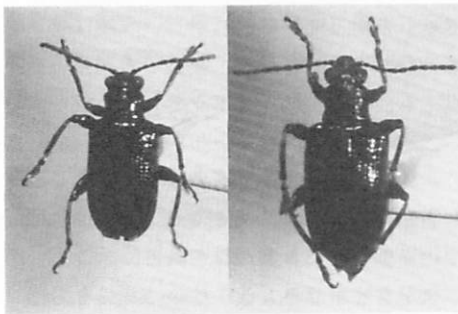
本種の兵庫県下の記録に関しても高橋寿郎氏が稀な種として報告されている(きべりはむしVol.14, No.2 (1986))。また、本種の場合も「能勢の昆虫」には記載されておらず、「宝塚の昆虫」の方には、やはり後藤光男氏のデータ(1951)のみ引

用されており、図版の部分は空白となっている。

後藤氏のデータのソースと考えられる保育社刊「原色昆虫図鑑(上)」p.70の解説によるとキアシルリクビボソハムシ *Oulema tristis* (HERBST) と共に『アシの茎中より多数採集した』と記載されている。図鑑の図版では詳細まで分からないがこのキアシルリクビボソハムシは、本種の肢が黄褐色の型ではないかと気になるところである。

これまで本種の食草は「スゲの類」と記載されてきた。しかし、筆者はトゲアシクビボソハムシを目的に採集に行った際、偶然に同じ場所で本種も採集した。その後、本種もイボクサが食草であることを確認した。この2種は、同じイボクサを食草とするため北摂周辺の調査地では混生していることが多い。個体数は、いずれの場所でも、トゲアシクビボソハムシより本種の方が少なかった。

また、本種も成虫で越冬し、同時期に見られる。



♂ ♀
スゲクビボソハムシ
Lema dilecta

神戸市北区藍那 12.VII.1992 本人採集

2. 調査経緯

以前、筆者は「きべりはむし Vol.14, No.2, P.36 (1986)」の「ヒラズゲンセイを神戸市で採集」の報告の中で、当日採集したものとしてトゲアシクビボソハムシ2頭等を付記した。筆者は、それまでルリクビボソハムシやキバラルリクビボソハムシについては、各所で採集していたが、トゲアシクビボソハムシはこの時、藍那で初めて手にした。

当初は、他の場所で見ることができず、近くへ採集に行った際は、藍那へよく立ち寄った。

1987年7月5日には、藍那の同じ場所で、畦道の土手をスイーピングし4頭を採集したが、その中にトゲアシクビボソハムシは1頭だけで、他の3頭は、似てはいるが小型であることに気付いた。

小型の種は、帰宅して調べたところスゲクビボソハムシと判明した。

また、1992年7月12日に藍那を訪れた際には、畦道に屈んで探していると、足元付近から2種が次々飛び立ち、稲の葉や茎に止まるため採集が容易であった。この時は個体数が多く、各々数頭ずつをフィルムケースに入れて持ち帰った。フィルムケースは1つしかなくて、蓋を開ける度に先に入れた虫が逃げようとするため、足元にあった草の葉をちぎり、ケースに入れた。3枚入れた葉はたまたま異なった種類の草であったが、帰宅して出してみると、そのうちの1枚が食べられていた。

水田の周囲に見られる草を中心に、植物図鑑で調べた結果、その草が「イボクサ」であることを確認した。この時、持ち帰った成虫は、イボクサが手元に無いため、ツユクサを与えて飼育した。

トゲアシクビボソハムシは、容易に産卵し、成虫まで飼育することができたが、スゲクビボソハムシの方は、産卵させることができなかった。

次に、1992年9月6日に藍那に出掛けた際は、先ずイボクサを探した。イボクサは、水田の縁にも生えていたが、泥に埋まった水路には群生していた。葉を丹念にめくってゆくと、予想通り幼虫を見付けることができた。この幼虫からは、スゲクビボソハムシ(19, IX, 1992; 1♂)と、トゲアシクビボソハムシ(9, X, 1992; 1♂, 11, X, 1992; 2♀)が羽化した。1993年9月5日に採集した幼虫からは、スゲクビボソハムシ(22, IX, 1993; 1♀)が羽化した。1994年7月9日の場合は、幼虫の他に蛹も見付けることができた。いずれもスゲクビボソハムシが羽化した(14, VII, 1994; 1♀, 17, VII, 1994; 3♀, 19, VII, 1994; 1♀, 20, VII, 1994; 1♀)。

蛹は3つ見付けたが、成虫が羽化したものは14日の1頭だけで、その他の2つからは体長2mm程の寄生蜂が羽化してきた。幼虫を採集したのも、同様に寄生されているものが多かった。

クビボソハムシの類は、蛹化の際に口から白い泡のようなものを吐き出して繭をつくる。前記のスゲクビボソハムシの繭は、イボクサの葉裏や葉の付け根で見付けることができた。飼育した場合も同様であった。トゲアシクビボソハムシの方は、まだ、自然状態では蛹を見付けていない。飼育すると葉の付け根等にも繭をつくるが、食草をさした瓶の口に綿を詰めていると、その綿の中に入って繭をつくっているものが多かった。トゲアシクビボソハムシの場合は、自然状態では、地中で蛹化することが多いのではないかと推測された。

以上のことから、この2種は共にイボクサが食草であることは間違いないものと考えられる。食草が判明し、生息環境も分かってくると、これまでは目を向けてこなかった水田の周囲にも注意するようになった。注意して見ているとイボクサは、珍しい植物ではなく、身近な水田でも見付けることができた。

後記にまとめたように、トゲアシクビボソハムシやスゲクビボソハムシは意外なほど次々と見付かった。中でも、川西市^{きたかみ}笹部(兵庫県)や豊能郡^{とよの}吉川(大阪府；初谷溪谷の入口)は、著名な採集地であり、筆者自身も何度も通った所であるが、今までは手前の水田の前を素通りしてきていた。また、笹部^{ささべ}や一庫^{ひとくら}は、自宅から自転車に乗ってでも5~10分の所であり、個体数も多く見られた。

3. 食性等について

トゲアシクビボソハムシとスゲクビボソハムシは共にイボクサが主要な食草であることは間違いないと考えられるが、トゲアシクビボソハムシの方は、自然状態でもたまたまツユクサを食草とすることがある。滋賀県の琵琶湖東岸においてツユクサの葉上で、トゲアシクビボソハムシを採集した

ことがあった(21, VII, 1988; 1♂)。また、笹部の畦道に生えていたツユクサから得た幼虫からもトゲアシクビボソハムシが羽化した(幼虫採集 4, VI, 1995. →羽化24, VI, 1995; 1♀)。飼育した結果でもトゲアシクビボソハムシは、ツユクサをよく食べ、産卵し、成虫にまで育てることができた。

スゲクビボソハムシの方は、今までのところ、野外ではイボクサ以外から成虫も幼虫も見付からなかった。また、飼育においては、ツユクサでは産卵させることができなかったが、幼虫が少し育ったところでツユクサを与えた時は、無事成虫となった。また、蛇足になるかもしれないが、この頃に採集し飼育した他のクビボソハムシ類も含めて食性を調べた概要を別表にまとめた。

なお、キバラルリクビボソハムシに関しては、自宅で栽培していたイボクサの葉上で成虫を採集したことがあった(13, VIII, 1992; 1♂)。しかし、笹部で採集した成虫(1, VII, 1995; 1♂1♀)にイボクサを与えて飼育しようとしたが直ぐに死んだため、イボクサを食べるかどうか、その後確認できていない。

最近、「日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説」

《クビボソハムシ類と食性》

種名	食草	
	イボクサ	ツユクサ
トゲアシクビボソハムシ <i>Lema coronata</i>	◎	○
スゲクビボソハムシ <i>Lema dilecta</i>	◎	△*
キバラルリクビボソハムシ <i>Lema concinnipennis</i>	?	◎
カワリクビボソハムシ <i>Lema diversa</i>	△*	◎
キオビクビボソハムシ <i>Lema delicatula</i>	△	◎

注) ◎；主要な食草

○；野外でも食草となることを確認

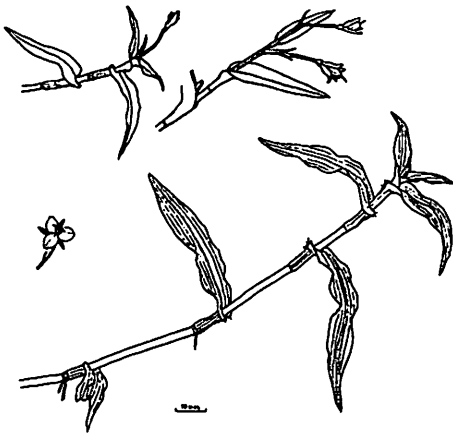
△；飼育中の成虫に与えれば食べた食草

*；幼虫の段階で与えて飼育が可能であったもの

(1994)を入手することができたが、この中に初めてスゲクビボソハムシがイボクサを食べることが記載されていた。しかし、トゲアシクビボソハムシの方は、従来通り、ツユクサを食草としている。

4. イボクサ *Murdannia keisak* (Hassk.)について
 前述のようにイボクサは、トゲアシクビボソハムシやスゲクビボソハムシの主要な食草であることが分かったが、筆者はイボクサ自体に馴染みがなかった。昔には、疣ができた際にこのイボクサを揉んだ汁を付けて治療したことから名付けられたそうである。最近、文一総合出版より「日本水草図鑑」(1994)が発行されたが、このp.63には兵庫県三木市、社町、吉川^{よしかわ}町産のイボクサの写真が掲載されている。時には、深い池の中にも生育しているため水草に含めているようである。

イボクサは、筆者の自宅付近においては3月下旬頃に発芽し、10月末頃に紅葉した後に枯れる一年草である。通常は、水田の縁に多く、泥の中に根を張りながら横に莖を伸ばす。莖の節目からも直ぐに発根するため、カーペット状に広がっている。葉は互生で肉厚質、細長く先端は尖る。9月下旬頃には、3枚の花弁のピンクの花を付ける等により水田の周囲では見分け易い植物である。



イボクサ *Murdannia keisak*

23, IX, 1994 神戸市藍那産(川西市栽培)

5. 生息地と採集データ

これまで北摂周辺で採集した2種のデータを以下にとりまとめた。飼育したものは含んでいない。採集者は全て筆者である。

なお、各地とも採集した個体は、目撃した数の半数以下となるように心掛けたため、生息地の個体数は決して少なくはなかった。

1) トゲアシクビボソハムシの採集データ

①神戸市北区藍那

7, VII, 1985; 2♂, 5, VII, 1987; 1♀, 12, VII, 1992; 6♂4♀, 19, IX, 1992; 1♂, 5, IX, 1993; 1♂5♀, 9, VII, 1994; 12♂2♀, 4, IX, 1994; 2♀

②川西市笹部

17, VI, 1993; 1♂(灯火), 6, VIII, 1994; 1♂, 3, IX, 1994; 6♂3♀, 24, IX, 1994; 4♂5♀, 1, X, 1994; 1♂, 2, X, 1994; 1♂1♀, 16, X, 1994; 4♂3♀, 4, VI, 1995; 5♂2♀, 24, VI, 1995; 4♂2♀, 1, VII, 1995; 1♂2♀, 16, VIII, 1995; 1♀, 7, X, 1995; 1♂1♀, 14, X, 1995; 2♀, 23, X, 1995; 1♀

③川西市一庫

12, VIII, 1995; 14♂13♀, 7, X, 1995; 3♂2♀, 14, X, 1995; 1♀

④宝塚市長谷(西谷地区)

9, VIII, 1995; 1♂2♀

⑤大阪府豊能郡豊能町吉川

23, VII, 1994; 1♂, 10, IX, 1994; 10♂7♀, 5, VIII, 1995; 2♀

⑥大阪府能勢町森上

24, VI, 1995; 9♂5♀

⑦大阪府能勢町山辺

24, VI, 1995; 1♂

2) スゲクビボソハムシの採集データ

①神戸市北区藍那

5, VII, 1987, 1♂2♀, 12, VII, 1992; 2♂3♀, 6, IX, 1992; 3♀, 5, IX, 1993; 1♂2♀, 9, VII, 1994; 8♂7♀, 4, IX, 1994; 8♂5♀

②川西市笹部

24, IX, 1994; 2♂1♀, 24, VI, 1995; 1♂1♀

③川西市一庫

12, VIII, 1995; 7♀, 7, X, 1995; 1♂

④大阪府豊能郡豊能町吉川

23, VII, 1994; 5♂3♀, 10, IX, 1994; 3♂1♀,
9, X, 1994; 2♂

⑤大阪府能勢町森上

24, VI, 1995; 9♂9♀

6. おわりに

トゲアシクビボソハムシとスゲクビボソハムシは、共に稀な種と考えられていたが、水田に多いイボクサが食草であることが分ると意外に身近な所で、両種が混生していた。水田は、単調な生態系と見られてきたことが盲点となっていたと考えられる。これまでに、筆者の行動力で調査できた範囲はわずかであったが、今後も調査地点を広げてゆきたいと思っている。生態に関しても、まだまだ不十分な調査結果であるため、もっと詳しく調べまともてみたい。

もし、この両種について興味をお持ちの方は、ぜひイボクサを目当てに調査し、報告して頂ければと思う。

(MORI KAZUO 川西市見野1丁目2-18)

<参考文献>

- 1) 大野正男(1967) 昆虫と自然 Vol.2(2)p.14
- 2) 木元新作(1987) Pacific Insects Vol.3(1) p.117
- 3) 木元新作(1987) 昆虫と自然 Vol.22(2)p.25
- 4) 木元新作他(1994) 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説 東海大学出版会
- 5) 日本甲虫学会(1955) 原色日本昆虫図鑑(上), 保育社
- 6) 林 匡夫他(1984) 原色日本甲虫図鑑(IV), 保育社
- 7) 高橋寿郎(1986) きべりはむし Vol.14(2) p.42
- 8) 高橋寿郎(1990) きべりはむし Vol.18(2) p.37
- 9) 仲田元亮(1982) 能勢の昆虫・甲虫の部(下)
- 10) 宝塚市教育委員会(1993) 宝塚の昆虫IV・甲虫目(II)
- *食草関係
- 11) 北村四郎他(1964) 原色日本植物図鑑, 草本編(下), 保育社
- 12) 佐竹義輔他(1982) 日本の野生植物, 草本I 単子葉類, 平凡社
- 13) 角野康郎(1994) 日本水草図鑑, 文一総合出版

諏訪山公園の蝶(追加その1)

山口福男

諏訪山公園の蝶について本誌第23巻第1号(1995)に報告したが、その後新たに2種について観察したので報告する。

イチモンジチョウ 1995年9月10日 1♀

クロコノマチョウ 1995年10月29日 1ex.

イチモンジチョウの雌の飛翔中はアサマイチョウと見分け難く、捕獲してようやく確認できた。

六甲山系に普通に見られる蝶なので、これまでに観察できなかったのが不思議なくらいである。

クロコノマチョウはここ数年来神戸市内で採集される数が増加しており、いつかは諏訪山公園に現れると期待していたが割に早く観察の機会に恵まれた。新鮮な秋型で雌雄は判別できなかった。

この個体は11月3日まで同じ場所にいたが、その後姿を見ることがなかった。

(YAMAGUCHI FUKUO 神戸市須磨区神ノ谷3丁目6-4)

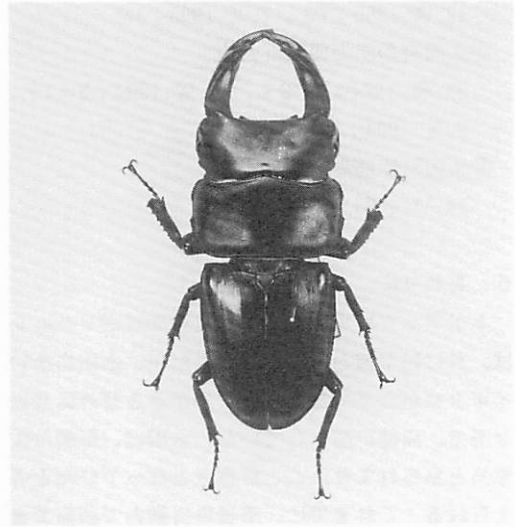
オオクワガタをめぐりて*

高橋 寿郎

オオクワガタは従来 *Dorcus hopei* (E.Saunders, 1854) の学名で知られてきた。この学名は茶の産地調査のため中国大陸を旅行した Fortune (敬称略, 以下同じ) の採集になる標本によって E.Saunders が1854年 *Platyprosopus* 属の種として記載された(原産地, 上海 [Shanghai])。

日本からこの種を記録したのは神戸にいた貿易商 T.Lenz の採集品について E.v.Harold が書いた論文の中に出てくる(1875)。続いて G.Lewis は1883年初めて日本での本種の産地を次のように具体的に記録した。即ち, Kobé, Kioto and Sendai。そのとき, C.Waterhouse が1874年記録した *Dorcus binodulosus* Waterhouse は発達の悪い小さな本種(*D. hopei*)のみであるとしてある(こちらの記載では, G.Lewis の採集とあるが産地は Japan とだけになっている)。現在この *binodulosus* が日本産オオクワガタの亜種名になる(このことは後述)。

即ち, オオクワガタの学名をつけた記録としては, 日本では神戸産が初めての記録地になるかと思う。ところが日本では, オオクワガタをもっと前に図説されたものがある。それは名古屋の本草学者, 水谷豊文による「豊文虫譜」の中で♂が示されているのである。この図は, 小西正泰がカラーで示されている(1990)。水谷豊文は, 「豊文虫譜」1冊, 「水谷虫譜」6冊, 「虫多寫真」1冊があり, このオオクワガタは「豊文虫譜」に出ていると(杉浦明平もカラーで図説, 1994)。この虫譜の出来たのが何時なのかははっきりと示したものが無い。水谷豊文は1779-1833年の間にいた人であるから恐らく1800年代の始めの頃のものではないかと考えられる。多分, 名古屋附近産のもので



Dorcus curvidens binodulosus Waterhouse, 1874 オオクワガタ
川西市笹部 1♂, 7.IX.1961, 体長54mm T.Takahashi leg.,
(現在, 人と自然の博物館に保管)

図を作ったのかと思う。

ずいぶん古い, その頃オオクワガタがわりと人の目につくほどいたとも考えられる(荒俣 宏もこの豊文虫譜については「天保のころ」と製作年をされているだけである-1991-。杉浦明平によれば水谷豊文の著作は公刊されたものは「物品識名」一種だけで他は未刊原稿または写しのままであるとしてオオクワガタも図示されているが「水谷豊文虫多寫真」よりとある(1986)。したがって製作年号などは依然はっきりしない, どれに出ているかもよくわからないが, 天保4年55才で没したとあるから天保の頃にかかれたものでよいのかもしれない。

オオクワガタが神戸, 京都, 仙台から記録されて以後, 松村松年博士が北海道から記録をされた(1894)。日本人による学名をつけたオオクワガタ

*兵庫県甲虫相資料・316

の記録としてはこれが一番初めてのように思われる。ただこの記録は、産地とかデータが全くない単に学名と和名を羅列しただけのもので、あまり確実な記録のようにも思われない(*Dorcus Hopei* Saund. クワガタムシとある)が、この報文以後本種の北海道分布については他に確実な記録が見られないまま、多くの文献に分布地に北海道を挙げて今日までにいたった(但し、北海道に本種を産するとした記録は1991, 1993年になってやっと出てきた)。

その次に古い記録は、大上宇一の兵庫県揖保郡(1901)、中村正雄の新潟県刈羽郡「北條」(1925)と出てくる。図説では、松村松年博士(1905)、鈴木元次郎(1923)が発表になった。オオクワガタはそれほど少ない種ではなかったのか、それとも人目にあまりつかない虫であったのか、人々の関心がなかったのか戦前での文献で見た限りでは意外と関係文献が少ないように思われる。ただ戦前において記録の見られた府県は次のようである。

青森県(十和田湖周辺)、宮城県(仙台)、新潟県(刈羽郡、新発田)、茨城県、東京都(用賀、杉並、井之頭、目黒)、三重県、京都府(丹波大江山)、大阪府(箕面、池田、八谷)、兵庫県(川西市、笹部、神戸市、多井畑、舞子、揖保郡)、四国伊豫、瓶ヶ森(高知県)、九州にも記録があるようだが筆者は文献で見られなかった。

筆者の目を通した文献が少ないからかも知れないが、日本各地に分布しているクワガタだと思いつながら、その記録がこんなに見られないのも意外であった。京阪神地方では愛好者の間でこの虫は注目されていたのではないかと、またこの虫の採集に出掛けることが多かったのではと思われる点がある。それは、当時筆者は昆虫趣味の会神戸支部に入会(1938年)、支部長関 公一、幹事米谷正司の所へよくお邪魔したものである。その頃米谷正司は標本商のようなこともやっており、標本ニュースのようなものを発行していた。標本箱3箱位

にギッシリとオオクワガタの標本を並べ、自慢気に見せられたりした(この標本箱は米谷正司が設計しこしらえたもので、5.8×31.5×46cmの大きさのもので、筆者は現在でも20箱を箆筒に入れている)。この標本の産地は、主に笹部、能勢のものであったと記憶している(昆虫界 Vol.7, No.59, 1939 の表紙に「図鑑と標本」と題して米谷正司撮影の写真が使用されている。そこに米谷正司所有のオオクワガタも写されている)。

ところで、神戸で日本での初記録が出ているのであるが、当時の神戸はかなり未開発の地であり、港町であって背後の山地帯は野猿とか鹿がいる状況であったと考えられるので、そこにオオクワガタがいたといっても別に驚くにあたらないだろうと考える。実際に戦前1930年代には神戸市内でオオクワガタの採集記録はあるし、筆者自身も裏山で採集した経験もある。数は少ないにしても神戸背山にオオクワガタはいた。それから何度かの洪水、戦争中の燃料不足のため樹木の伐採とか、そして戦後の無秩序の開発の波で少なくとも戦前を知っているものには驚くべき変化によって、まず神戸市内での本種の生棲は絶望的であると考えられる(1930年代は東京都内でも採集が出来たようだし、現に井之頭で採集された立派な♂がカラーで当時の図鑑に図示されたりした)。笹部附近とか能勢の方も戦後暫くはよかったが、この附近も急速な開発の波に洗われて生棲環境が次々と破壊されている。さらにはクワガタブームとやらで、乱獲(商売になる、金になるとなると想像を超えた捕獲のしかたをやったりしている)でその姿を急速に減少そして絶滅へと進んでいるような感じを受ける。

それでも戦前はそれほど注目されるクワガタムシでもなかったのか文献上に出てくる記録は少なかった。戦後も暫くの間はそんなに話題になるようなこともなかったと思われるが、1980年代に何が原因かよくわからないのであるが、クワガタブ

ームが起こるようになってからあれよあれよという間にクワガタムシ就中オオクワガタは日本を代表するクワガタの王様になってしまったのか、大変な人気者になってしまった。オオクワガタについての文献も数多く出版され始め、特に子供向けの図説等は同じようなものが次から次へと出版され、そのものズバリ"オオクワガタ"というタイトルの本の出現にまでいたっている。最近では、飼育によって大きな個体をこしらえるということに熱中するとか、財産造りに一役買うとか、いやはや大変な状況になっている。

何がこんなにブームになったのかわからないし、これからもどうなってゆくのか想像も出来ない。

ただ、オオクワガタはほぼ日本全国に分布しており、個体数は少なくお目にかかることはかなり困難なクワガタムシではあるが、金儲けとか興味本位での乱獲は厳に止めてほしく、そうでなくても自然破壊の中で次第に絶滅に追い打ちをかけられているクワガタムシのように思われる(最近はおオクワガタの体長の大きなものを飼育によって作ろうといったことが盛んになっているようで、東南アジア産の近似種との交配による生産が行われ、混乱しているとのことも聞いている)。

さて、最後になったがおオクワガタの学名について若干述べておく。初めに記したごとく従来からオオクワガタは *Dorcus hopei* (B.Saunders, 1854) が用いられてきた。市川敏之は種々検討の上、日本から中国、東南アジアにかけて広く分布している *Dorcus curvidens* (Hope, 1840) の亜種 *hopei* (B.Saunders, 1854) を用いるべきことを提唱された(1986)。最近、水沼哲郎・永井信二著になる"世界のクワガタムシ大図鑑"(1994)の中で中国に産する *hopei* (Saunders) と日本、朝鮮半島に分布する個体群は違うとして Waterhouse が 1874年に与えた *D. binodulosus* を日本産オオクワガタ *Dorcus curvidens binodulosus* Waterhouse, 1874の新しい亜種名として示された(この項水沼

哲郎担当。水沼哲郎は亜種名を間違っている。

Water-house の記載名は *Dorcus binodulosus* であり *Dorcus binodulus* ではない)。

<参考文献>

- 荒俣 宏(1991) 世界大博物図鑑①「蟲類」
(平凡社・東京)
- Harold,H.V.(1875) Verzeichniss der von Herrn, T.Lenz in Japan gesammelten Coleoptera Abhandl. Nat. Ver. Bremen. V:115-135.
- 市川敏之(1986) オオクワガタについて
月刊むし(185):4-12.
- 小西正泰(1990) 虫づくし・虫の博物画 虫の日本史:8-27(新人物往来社・東京)
- Lewis,G.(1883) On the Lucanidae of Japan
Trans. ent. Soc. London, 1883 :333-341.
- 松村松年(1894) 北海道産鞘翅類
動物学雑誌 6(65):84-97.
- 松村松年(1906) 日本千虫図解 第3巻
(警醒社・東京)
- 水沼哲郎・永井信二(1994) 世界のクワガタムシ
大図鑑 p.265-266, pl.94,95, fig.394,
1-37(むし社・東京)
- 大上宇一(1901) 播磨産金亀子科
動物学雑誌 13(156):321-323.
- 杉浦明平(1986) 水谷豊文「江戸の博物図鑑12」
アニマ(159):64-67.
- 鈴木元次郎(1923) 日本産鍬形虫
通俗昆虫雑誌 1(1):5-16, pl.1,2.
- Waterhouse,C.O.(1874) Description of five
new Lucanid Coleoptera
Ent. Monthl. Mag., XI:6-8.
- (TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

相生市三濃山麓の蛾(1)

- 兵庫県産蛾類分布調査資料・4 -

高島 昭

三濃山(509m)は相生市の最北部に位置し、西播丘陵地帯の中心である。このあたりは比較的起伏が緩やかな、せいぜい300~400m程度の隆起準平原からなり、吉備高原の延長と見ることできる。気候は温暖少雨で、とくに冬季に雨が少なく、瀬戸内海気候とみることができ、やや内陸的な要素もあり、昼夜、夏冬の温度較差は比較的大きい。とくに冬季の最低気温は明石市、姫路市や赤穂市の沿岸部と比べると3~4℃も低い。

基本的な植生は暖帯性の常緑広葉樹林であるが、尾根や丘陵の頂部では地味が痩せており、クロマツ・ツツジ群落が多く土壌極相の様相を見せている。この傾向は瀬戸内海沿岸に近づくほど顕著になる。一方、谷部は集落が点在しており、コナラを中心とした二次林や杉の植林が多く、本来の自然植生は寺社林等を除いてほとんど見られない。

その中において、三濃山周辺は小規模ながら照葉樹林群落が残っており、ナツアサドリ、チトセ

カズラ、コヤスノキなどこの地域を特徴づける植物が分布している。シリブカガシ、アカガシなどの群落も僅かに見られ、西播磨の自然を今に残す貴重な地域といえる。そのようなわけで、西播磨低山地の蛾相の調査を行うに当たり、三濃山麓の相生市矢野町瓜生「羅漢の里」公園を定点として1989年に調査を始めた。「羅漢の里」は三濃山登山口の溪谷にある石仏(作者不詳)が有名で、相生市が公園として整備したものである。このように半人工的環境となったところであるが、後背の山の自然は保たれ、適度な空間と光源にも恵まれており、少なからず蛾が飛来する。ところが、キャンプ場やログハウスなどがあるため、夏になるにつれて多くのキャンパーが訪れるようになり、採集を行える状況ではなくなった。したがって、春から梅雨期のみでの記録しかなく、夏以降のデータの集積をと思ううちに月日が経ってしまった。したがって中途半端なままであるがとりあえず中間報告とさせていただきます。

種の配列は講談社の日本産蛾類大図鑑(井上ほか)によった。また、注目すべき種と思われるものには簡単な注釈を付けた。採集者は全て筆者である。また、種名の前には便宜上、当地での採集リストとして科ごとに通し番号を付けた。

イラガ科 LIMACODIDAE

1. *Monema flavescens* Walker

イラガ

23. VI. 1989 1♂

2. *Phrixolepia sericea* Butler

アカイラガ

13. V. 1989 1♀, 1. VI. 1989 2♂

普通種であるが県下に記録が見あたらない。



3. *Austrapoda dentata* (Oberthür)

ムラサキイラガ

7. VI. 1989 1♂, 7. VII. 1989 1♀

4. *Ceratonema sericea* (Butler)

ウストビイラガ

7. VI. 1989 1♀, 23. VI. 1989 1♂

シャクガ科 GEOMETRIDAE

<アオシヤク亜科 GEOMETRINAE>

1. *Pingasa alba* Swihoe

オオシロアヤシヤク

30. VI. 1989 1♂

2. *Pachyodes superans* (Butler)

オオアヤシヤク

7. VI. 1989 1♂

3. *Agathia visenda* Butler

アシプトチズモンアオシヤク

23. VI. 1989 1♂, 30. VI. 1989 1♂

4. *Timandromorpha enervata* Inoue

ノコバアオシヤク

7. VI. 1989 1♂1♀

5. *Tanaorhinus reciprocata* (Walker)

カギバアオシヤク

30. VI. 1989 1♂

6. *Geometra ussuriensis* (Sauber)

マエモンシロスジアオシヤク

23. VI. 1989 1♂

稀な種で県下では猪名川町^{1) 2)}で記録がある。

西播では初記録と思われる。

7. *Geometra dieckmanni* Graeser

カギシロスジアオシヤク

24. V. 1989 1♂

8. *Geometra valida* Felder & Rogenhofer

クロスジアオシヤク

23. VI. 1989 1♀

9. *Neohipparchus vallata* (Butler)

キマエアオシヤク

1. VI. 1989 1♂

10. *Gelasma ambigua* (Butler)

ツバメアオシヤク

17. VI. 1989 1♂

11. *Gelasma fuscofrons* Inoue

ズグロツバメアオシヤク

7. VII. 1989 1♂

12. *Gelasma protrusa* (Butler)

ヒメツバメアオシヤク

7. VII. 1989 1♀

13. *Hemithea marina* (Butler)

アオスジアオシヤク

23. VI. 1989 1♀

14. *Chlorissa macrotyro* Inoue

ウスハラアカアオシヤク

30. VI. 1989 1♂

南淡町³⁾で記録があり、これが2例目となる。

15. *Culpinia diffusa* (Walker)

アカアシアオシヤク

7. VII. 1989 1♀

16. *Comibaena procumbaria* (Pryer)

ヨツモンマエジロアオシヤク

30. VI. 1989 1♂

17. *Comibaena amoenaria* (Oberthür)

ヘリジロヨツメアオシヤク

30. VI. 1989 1♂

18. *Comibaena delicatior* (Warren)

クロモンアオシヤク

24. V. 1989 1♀

19. *Thetidia albocostaria* (Bremer)

ヨツメアオシヤク

30. VI. 1989 1♂

<ヒメシヤク亜科 STERRHINAE>

20. *Pylargosceles steganioides* (Butler)

フタナミトビヒメシヤク

28. IV. 1995 1♀

21. *Somatina indicataria* (Walker)

ウンモンオオシロヒメシヤク

24. V. 1989 1♀

22. *Problepsis superans* (Butler)
 ヒトツメオオシロヒメシャク
 30. VI. 1989 1♂
23. *Scopula nigropunctata* (Hufnagel)
 マエキヒメシャク
 24. V. 1989 1♂
24. *Scopula superior* (Butler)
 キナミシロヒメシャク
 24. V. 1989 1♀, 17. VI. 1989 1♀
25. *Scopula tenuisocius* Inoue
 アメイロヒメシャク
 1. VI. 1989 1♂
26. *Scopula prouti* Djakonov
 ウラクロスジシロヒメシャク
 17. VI. 1989 1♂
27. *Idaea invalida* (Butler)
 オイワケヒメシャク
 7. VI. 1989 1♀
- <ナミシャク亜科 LARENTIINAE>
28. *Esakiapteryx voltans* (Butler)
 ウスベニスジナミシャク
 28. III. 1995 1♀
29. *Epilobophora obscuraria* (Leech)
 アトスジグロナミシャク
 1. VI. 1989 1♀
30. *Earophila correlata* (Warren)
 ミカヅキナミシャク
 23. III. 1995 1♂
31. *Idiotephria amelia* (Butler)
 モンキキナミシャク
 28. III. 1995 1♂, 18. IV. 1995 2♂
 28. IV. 1995 1♀
32. *Idiotephria debilitata* (Leech)
 ギフウスキナミシャク
 23. III. 1995 1♂, 28. III. 1995 1♀
 産地が限定されるとのことであるが、西播地域には多いようだ。
33. *Eulithis ledereri* (Bremer)
 ウストビモンナミシャク
 17. VI. 1989 1♂1♀
34. *Eulithis convergenata* (Bremer)
 ヨコジマナミシャク
 23. VI. 1989 1♂
 氷上郡⁴⁾と氷ノ山⁵⁾に記録がある。普通種らしいが他に記録は見あたらない。
35. *Gandaritis fixseni* (Bremer)
 キマグラオオナミシャク
 23. VI. 1989 1♂
36. *Gandaritis agnes* (Butler)
 キガシラオオナミシャク
 17. VI. 1989 1♂
37. *Evecliptopera decurrens* (Moore)
 セスジナミシャク
 13. V. 1989 1♀
38. *Ecliptopera umbrosaria* (Motshulsky)
 オオハガタナミシャク
 30. VI. 1989 1♀
39. *Eustroma melancholicum* (Butler)
 ハガタナミシャク
 13. V. 1989 1♂
40. *Sibatania mactata* (Felder & Rogenhofer)
 ビロードナミシャク
 13. V. 1989 1♀, 17. VI. 1989 1♂
41. *Venusia cambrica* Curtis
 ミヤマナミシャク
 18. IV. 1995 2♂
 山地性の蛾である。県下での記録は見られない。
42. *Hydrelia bicauliata* Prout
 マドラウスナミシャク
 28. IV. 1995 1♂
 春1回出現するが少ない種である。県下初記録と思われる。
43. *Laciniodes unistirpis* (Butler)
 セグロナミシャク
 7. VI. 1989 1♀
 普通種であるが案外記録は少ない。氷上郡⁴⁾と

- 摩耶山⁹⁾の2例のみである。
44. *Eupithecia signigera* Butler
 ソトカバナミシヤク
 28. IV. 1995 1♂
 春に発生する種である。これまでの記録は摩耶山⁷⁾と洲本市⁸⁾の2例のみである。
45. *Eupithecia interpunctaria* Inoue
 クロテンヤスジカバナミシヤク
 1. VI. 1989 1♂
 全国的な普通種とのことであるが、県下での採集例は見あたらない。
- <エダシヤク亜科 ENNOMINAE>
46. *Abraxas fulvobasalis* Staudinger
 クロマダラエダシヤク
 1. VI. 1989 1♂
 これまで県下での記録は見あたらない。
47. *Heterostegane hyriaria* Warren
 サザナミオビエダシヤク
 7. VI. 1989 2♂
48. *Peratostega deletaria* (Moore)
 ヤマトエダシヤク
 1. VI. 1989 1♂
49. *Orthocabera tinagmaria* (Guenée)
 ナミスジシロエダシヤク
 28. IV. 1995 1♂1♀
 全国的にはかなり稀な種のようなのだが、兵庫県下では採集例が多い。
50. *Parabapta aetheriata* (Graeser)
 フタスジウスキエダシヤク
 1. VI. 1989 1♀
 西南日本では山地性となりイタヤカエデを食する。県下初記録と思われる。
51. *Parabapta clarissa* (Butler)
 ウスアオエダシヤク
 24. V. 1989 1♀, 7. VI. 1989 1♀
 7. VII. 1989 1♀
52. *Plesiomorpha punctilinearia* (Leech)
 モンオビオエダシヤク
 13. V. 1989 1♂, 18. IV. 1995 1♂
53. *Synegia hadassa* (Butler)
 ハグルマエダシヤク
 17. VI. 1989 1♂
54. *Synegia limitatoides* Inoue
 スジハグルマエダシヤク
 23. VI. 1995 1♂
55. *Synegia esther* Butler
 クロハグルマエダシヤク
 17. VI. 1989 1♀
56. *Crypsicometa incertaria* (Leech)
 ツマキエダシヤク
 24. V. 1989 1♀
57. *Godonela defixaria* (Walker)
 フタテンオエダシヤク
 1. VI. 1989 1♂1♀, 17. VI. 1989 1♂
58. *Culcula panterinaria* (Bremer & Grey)
 キオビゴマダラエダシヤク
 1. VI. 1989 1♂
59. *Antipercnia albinigrata* (Warren)
 ゴマダラシロエダシヤク
 13. V. 1989 2♂, 24. V. 1989 1♂
 7. VI. 1989 1♂
60. *Dilophodes elegans* (Butler)
 クロフシロエダシヤク
 17. VI. 1989 1♂
61. *Arichanna melanaria* (Linnaeus)
 キシタエダシヤク
 1. VI. 1989 1♂
62. *Arichanna jaguararia* (Guenée)
 ヒョウモンエダシヤク
 23. VI. 1989 1♂
63. *Apocleora rimosa* (Butler)
 クロクモエダシヤク
 24. V. 1989 1♂
64. *Cleora leucophaea* (Butler)
 シロテンエダシヤク
 23. III. 1995 2♂

65. *Alcis angulifera* Inoue
ナカウスエダシヤク
24. V. 1989 1♀
66. *Rikiosatoa grisea* (Butler)
フタヤマエダシヤク
7. VI. 1989 1♀
67. *Deileptenia ribeata* (Clerck)
マツオエダシヤク
1. VI. 1989 2♂, 7. VI. 1989 1♂
68. *Hypomecis lunifera* (Butler)
オオバナミガタエダシヤク
17. VI. 1989 1♂
69. *Hypomecis definita* (Butler)
ナカシロオビエダシヤク
30. VI. 1989 1♂
70. *Hypomecis punctinalis* (Scopoli)
ウスバミスジエダシヤク
24. V. 1989 1♂, 23. VI. 1989 1♀
71. *Calicha ornataria* (Leech)
ソトシロオビエダシヤク
7. VI. 1989 1♂
普通種であるが案外記録は少ない。一般的にシヤクガはあまり発表されていないようだ。氷上郡⁴⁾と氷ノ山¹⁰⁾で採集例がある。
72. *Ophthalmitis albosignaria* (Bremer & Grey)
ヨツメエダシヤク
24. V. 1989 1♂, 1. VI. 1989 1♀
17. VI. 1989 1♂
73. *Paradarisa chloauges* Prout
ヒロバウスアオエダシヤク
1. VI. 1989 1♂, 17. VI. 1989 2♂
23. VI. 1989 1♂
74. *Cusiala stipitaria* (Oberthür)
セプトエダシヤク
1. VI. 1989 1♂
75. *Ectropis crepuscularia* (Denis & Schiffermüller)
フトフタオビエダシヤク
1. VI. 1989 1♂, 7. VI. 1989 1♂
76. *Ectropis excellens* (Butler)
オオトビスジエダシヤク
18. IV. 1995 1♂
77. *Agroipis dira* (Butler)
シロフフユエダシヤク
28. III. 1995 1♂
78. *Phigaliohybernia fulvinfula* Inoue
チャオビフユエダシヤク
28. III. 1995 1♂
分布域は東海地方から近畿地方で、最西端記録かも知れない。
79. *Phigalia verecundaria* (Leech)
シロトゲエダシヤク
28. III. 1995 1♂
80. *Amraica superans* (Butler)
ウスイロオオエダシヤク
7. VI. 1989 1♂
81. *Pachyligia dolosa* Butler
アトジロエダシヤク
23. III. 1995 1♂
82. *Planociampa modesta* (Butler)
ホソバトガリエダシヤク
23. III. 1995 5♂, 28. III. 1995 3♂1♀
83. *Planociampa antipala* Prout
ヒロバトガリエダシヤク
28. III. 1995 2♂1♀
84. *Exangerona pattiaria* (Leech)
オイワケキエダシヤク
1. VI. 1989 1♂
85. *Menophra senilis* (Butler)
ウスクモエダシヤク
7. VII. 1989 1♀
86. *Psyra bluethgeni* (Püngeler)
クロモンキリバエダシヤク
28. III. 1995 1♂
早春に出現する蛾で、県下での記録は見あたらない。
87. *Scardamia aurantiacaria* Bremer

- サラサエダシヤク
24.V.1989 1♀, 7.VI.1989 1♂
17.VI.1989 1♂1♀
88. *Nothomiza formosa* (Butler)
マエキトビエダシヤク
23.VI.1989 1♂
89. *Odontopera arida* (Butler)
エグリツマエダシヤク
13.V.1989 2♂
90. *Auaxa sulphurea* (Butler)
キエダシヤク
23.VI.1989 1♂
91. *Garaeus specularis* Moore
キバラエダシヤク
30.VI.1989 1♂
92. *Endropiodes indictinaria* (Bremer)
モミジツマキリエダシヤク
28.IV.1995 4♂
今のところ西播地域でのみ採れている。
93. *Endropiodes objectus* (Butler)
ツマキリエダシヤク
13.V.1989 1♂, 28.IV.1995 1♂
94. *Plagodis dolabraria* (Linnaeus)
ナカキエダシヤク
7.VII.1989 1♂
95. *Plagodis pulveraria* (Linnaeus)
コナフキエダシヤク
30.VI.1989 1♂
96. *Heterolocha aristonaria* (Walker)
ウラベニエダシヤク
24.V.1989 1♀
97. *Corymica arnearia* Walker
ヒメウコンエダシヤク
7.VII.1989 1♀
98. *Ourapteryx nivea* Butler
シロツバメエダシヤク
24.V.1989 1♂
99. *Ourapteryx obtusicauda* (Warren)
- コガタツバメエダシヤク
1.VI.1989 1♀
- カギバガ科 DREPANIDAE**
<カギバガ亜科 DREPANINAE>
1. *Agnidra scabiosa* (Butler)
マエキカギバ
24.V.1989 1♀
2. *Pseudalbara parvula* (Leech)
ヒメハイイロカギバ
13.V.1989 1♀
3. *Nordstromia japonica* (Moore)
ヤマトカギバ
13.V.1989 1♂, 24.V.1989 1♀
4. *Tridrepana crocea* (Leech)
ウコンカギバ
30.VI.1989 1♂
5. *Auzata superba* (Butler)
ヒトツメカギバ
7.VI.1989 1♀
6. *Macrocilix mysticata* (Walker)
ウスギヌカギバ
13.V.1989 1♂, 24.V.1989 1♂
7. *Macrauzata maxima* Inoue
スカシカギバ
1.VI.1989 1♂
- <フトカギバ亜科 ORETINAE>
8. *Oreta pulchripes* Butler
アシベニカギバ
1.VI.1989 1♂
9. *Oreta turpis* Butler
クロスジカギバ
1.VI.1989 1♂
- トガリバガ科 THYATIRIDAE**
1. *Thyathia batis* (Linnaeus)
モントガリバ
1.VI.1989 1♂

2. *Tethea ampliata* Butler

オオバトガリバ

17. VI. 1989 1♂

3. *Tethea octogesima* (Butler)

ホソトガリバ

24. V. 1989 1♀, 1. VI. 1989 1♂

17. VI. 1989 1♂1♀

4. *Tethea consimilis* (Warren)

オオマエベニトガリバ

7. VII. 1989 1♂

5. *Kurama mirabilis* (Butler)

サカハチトガリバ

18. IV. 1995 1♀

6. *Demopsestis punctigera* (Butler)

ホシボシトガリバ

28. III. 1995 1♂

フタオガ科 EPIPLEMIDAE

1. *Epiplema moza* (Butler)

クロホシフタオ

7. VI. 1989 1♂

カレハガ科 LASIOCAMPIDAE

1. *Odonestis pruni* (Linnaeus)

リンゴカレハ

30. VI. 1989 1♂

オビガ科 EUPTEROTIDAE

1. *Apha aequalis* (Felder)

オビガ

7. VII. 1989 1♂

イボタガ科 BRAHMAEIDAE

1. *Brahmophthalma japonica* Butler

イボタガ

18. IV. 1995 1♀

ヤママユガ科 SATURNIIDAE

1. *Agria japonica* Leech

エゾヨツメ

18. IV. 1995 1♂

里山の代表的な春の蛾であるが、このほど発表された兵庫県版レッドデータブックではCランク(日本版レッドデータブックの希少種に相当し、特殊な環境に生息、個体数が極めて少ない、分布が局限している等県内において存続基盤が脆弱な種)に位置づけられている。郊外地域ほど自然破壊が進んでいる裏返しといえよう。

スズメガ科 SPHINGIDAE

1. *Ambulyx schaufelbergeri* Bremer & Grey

モンホソバズメ

13. V. 1989 1♀

2. *Smerinthus tokyonis* Hatsumura

コウチスズメ

1. VI. 1989 1♂

西播では三日月町⁹⁾に記録がある。3. *Phillosphingia dissimilis* (Bremer)

エソスズメ

1. VI. 1989 1♂

4. *Theretra japonica* (Boisduval)

コスズメ

7. VI. 1989 2♂

ドクガ科 LYMANTRIIDAE

1. *Calliteara conjuncta* (Wileman)

スズキドクガ

1. VI. 1989 1♂, 23. VI. 1989 1♀

2. *Cifuna locuples* Walker

マメドクガ

23. VI. 1989 1♂, 30. VI. 1989 1♂1♀,

7. VII. 1989 1♂

3. *Numenes albofascia* (Leech)

シロオビドクガ

30. VI. 1989 1♀

4. *Lymantria dispar* (Linnaeus)

マイマイガ

7. VII. 1989 1♂

5. *Topomesoides jonassii* (Butler)

ニワトコドクガ

7. VI. 1989 1♂, 30. VI. 1989 1♀

6. *Pida nipponis* (Butler)

クロモンドクガ

7. VII. 1989 1♀

7. *Sphrageidus similis* (Fuessly)

モンシロドクガ

17. VI. 1989 1♂

8. *Euproctis pulverea* (Leech)

ゴマフリドクガ

7. VI. 1989 1♂

ヒトリガ科 ARCTIIDAE

<コケガ亜科 LITHOSIINAE>

1. *Elimea laevis* Butler

ツマキホソバ

7. VI. 1989 1♂, 17. VI. 1989 1♀

2. *Ghoria collitoides* Butler

キマエクロホソバ

1. VI. 1989 1♀

3. *Conilepia nigricosta* (Leech)

マエグロホソバ

30. VI. 1989 1♀, 7. VII. 1989 1♂1♀

4. *Macrobrochis staudingeri* (Alphéraky)

クビワウスグロホソバ

17. VI. 1989 1♀

5. *Bizone hamata* Walker

アカスジシロコケガ

17. VI. 1989 1♂

6. *Parasiccia altaica* (Lederer)

ホシオビコケガ

23. VI. 1989 1♂

7. *Melanaema venata* Butler

オオベニヘリコケガ

17. VI. 1989 1♂, 7. VII. 1989 1♀

8. *Asura dharmia* (Moore)

ヒメホシキコケガ

23. VI. 1989 1♂

9. *Eugoa grisea* Butler

クロテンハイイロコケガ

23. VI. 1989 1♀

10. *Miltochrista aberrans* Butler

ハガタバニコケガ

1. VI. 1989 1♀, 17. VI. 1989 1♀

11. *Miltochrista striata* (Bremer & Grey)

スジベニコケガ

13. V. 1989 1♀

12. *Miltochrista pulchra* Butler

ゴマダラベニコケガ

17. VI. 1989 1♀

13. *Stigmatophora leacrita* (Swinhoe)

ゴマダラキコケガ

30. VI. 1989 1♂

<ヒトリガ亜科 ARCTIINAE>

14. *Spilarctia seriatopunctata* Motschulsky

スジモンヒトリ

1. VI. 1989 1♀

15. *Spilosoma bifasciata* (Butler)

フタスジヒトリ

17. VI. 1989 1♀

16. *Lemyra flammeola* (Moore)

アカヒトリ

30. VI. 1989 1♂

17. *Lemyra inaequalis* (Butler)

カクモンヒトリ

30. VI. 1989 2♀

18. *Eospilarctia lewisii* (Butler)

クロフシロヒトリ

13. V. 1989 1♂

19. *Spilosoma punctaria* (Gramer)

アカハラゴマダラヒトリ

13. V. 1989 1♂

20. *Spilosoma lubricipeda* (Linnaeus)

キハラゴマダラヒトリ

30. V. 1989 1♀

21. *Rhyarioides nebulosus* Butler

ベニシタヒトリ

7. VI. 1989 1♂

コブガ科 NOLIDAE

1. *Meganola protogigas* (Inoue)

ニセオオコブガ

23. VI. 1989 1♀

大図鑑¹¹⁾では島根、四国、対馬を分布地にあ
げているが、南淡町³⁾、三日月町⁹⁾でも記録さ
れている。

2. *Meganola fumosa* (Butler)

クロスジコブガ

1. VI. 1989 1♂, 7. VI. 1989 1♂1♀

ヤガ科 NOCTUIDAE

<ウスベリケンモン亜科 PANTHEINAE>

1. *Trichosea champa* (Moore)

キバラケンモン

7. VII. 1989 1♀

<ケンモン亜科 ACRONICTNAE>

2. *Moma alpium* (Osbeck)

ゴマケンモン

17. VI. 1989 1♀

3. *Gerbathodes lichenodes* (Graeser)

シロフヒメケンモン

7. VI. 1989 1♂, 17. VI. 1989 1♂

4. *Viminia rumicis* (Linnaeus)

ナシケンモン

30. VI. 1989 1♂

5. *Craniphora fasciata* (Moore)

シマケンモン

7. VI. 1989 1♂

6. *Narcotina niveosparsa* (Matsumura)

シロフクロケンモン

30. VI. 1989 1♂

7. *Lophonycta confusa* (Leech)

アミメケンモン

7. VI. 1989 1♂, 30. VI. 1989 1♂

<キノコトウ亜科 BRYOPHILINAE>

8. *Stenoloba jankowskii* (Oberthür)

シロスジキノコトウ

7. VII. 1989 1♀

<モンヤガ亜科 NOCTUINAE>

9. *Agrotis ipsilon* (Hufnagel)

タマナヤガ

24. V. 1989 1♀

10. *Hermonassa cecilia* Butler

クロクモヤガ

24. V. 1989 1♀, 17. VI. 1989 1♀

11. *Sineugraphe longipennis* (Boursin)

オオカバスジャガ

30. VI. 1989 1♂, 7. VII. 1989 1♀

12. *Diarsia deparca* (Butler)

コウスチャヤガ

24. V. 1989 1♀

13. *Diarsia canescens* (Butler)

オオバコヤガ

24. V. 1989 1♀

14. *Diarsia ruficauda* (Warren)

ウスイロアカフヤガ

23. VI. 1989 1♀

15. *Xestia efflorescens* (Butler)

キシタミドリヤガ

7. VII. 1989 1♂

16. *Naenia contaminata* (Walker)

クロギシギシヤガ

1. VI. 1989 1♂, 17. VI. 1989 1♂

<ヨトウガ亜科 HADENINAE>

17. *Mamestra brassicae* (Linnaeus)

ヨトウガ

13. V. 1989 1♂

18. *Protomiselia bilinea* (Hampson)

- フタスジヨトウ
17. VI. 1989 2♂
19. *Orthosia limbata* (Butler)
シロヘリキリガ
28. III. 1995 1♀
20. *Orthosia munda* (Denis & Schiffermüller)
スモモキリガ
28. III. 1995 1♂
21. *Orthosia gothica* (Matsumura)
カシワキリガ
23. III. 1995 1♂
22. *Aletia placida* (Butler)
クロシタキヨトウ
17. VI. 1989 1♂
- <カラスヨトウ亜科 AMPHIPYRINAE>
23. *Dipterygina cupreotincta* Sugi
ウスクロモクメヨトウ
17. VI. 1989 1♂, 23. VI. 1989 1♂
24. *Spodoptera depravata* (Butler)
スジキリヨトウ
13. V. 1989 1♂, 24. V. 1989 2♂
25. *Athetis stellata* (Moore)
ヒメサビスジヨトウ
1. VI. 1989 1♀, 7. VI. 1989 1♂
26. *Orthogonia sera* Felder
ノコメセダカヨトウ
30. VI. 1989 1♂
27. *Chytonix albonotata* (Staudinger)
ネグロヨトウ
7. VI. 1989 1♂
28. *Callopietria juvenina* (Stoll)
ムラサキツマキリヨトウ
7. VII. 1989 1♂
29. *Callopietria repleta* Walker
マダラツマキリヨトウ
17. VI. 1989 1♂, 7. VII. 1989 1♂
30. *Sphragifera biplaga* (Walker)
コマルモンシロガ
7. VI. 1989 1♂
- <キノカワガ亜科 SARROTHRIPINAE>
31. *Nolathripa lactaria* (Graeser)
コマバシロキノカワガ
17. VI. 1989 1♂
- 西播では初記録と思われる。
- <リング亜科 CHLOEPHORINAE>
32. *Pseudoips sylpha* (Butler)
アカスジアオリング
7. VII. 1989 1♀
33. *Ariolica argentea* (Butler)
ギンボシリング
13. V. 1989 1♂1♀
34. *Sinna extrema* (Walker)
アミメリング
24. V. 1989 1♀
- <コヤガ亜科 ACONTIINAE>
35. *Arasada ornata* (Wileman)
ヤマトコヤガ
1. VI. 1989 1♂, 7. VI. 1989 1♂
- 東海地方から紀伊半島、四国南部、九州にかけて分布するとされている。淡路や瀬戸内沿岸では見付かるものと思われる。
36. *Hyposada brunnea* (Leech)
ウスキコヤガ
23. VI. 1989 2♂1♀
37. *Protodeltole distinguenda* (Staudinger)
シロマダラコヤガ
7. VI. 1989 1♂
38. *Sugia stygia* (Butler)
ウスシロフコヤガ
17. VI. 1989 1♂
39. *Lithacosia erastroides* (Draudt)
ニセシロフコヤガ
17. VI. 1989 1♂
- 西播地域では初めての記録と思われる。
40. *Neustrotia japonica* (Warren)
マエモンコヤガ

17. VI. 1989 1♂, 23. VI. 1989 1♂
41. *Phyllophila obliterata* Rambur
ヨモギコヤガ
17. VI. 1989 1♀
<ウワバ亜科 PLUSIINAE>
42. *Thysanoplusia intermixta* (Warren)
キクキンウワバ
30. VI. 1989 1♂
<シタバガ亜科 CATOCALINAE>
43. *Catocala intacta* Leech
ウスイロキシタバ
17. VI. 1989 1♂, 23. VI. 1989 1♂
30. VI. 1989 2♂
アラカシを食樹としており、県南部の平地から低山地に点々と記録があるが、ここでは個体数が多い。
44. *Catocala patala* C. & R. Felder
キシタバ
17. VI. 1989 1♂, 23. VI. 1989 1♂
30. VI. 1989 2♂
45. *Mocis anetta* (Butler)
ウンモンクチバ
13. V. 1989 2♂, 17. VI. 1989 1♂
46. *Mocis ancilla* (Warren)
ニセウンモンクチバ
1. VI. 1989 1♀
47. *Ercheia umbrossa* Butler
モンムラサキクチバ
13. V. 1989 1♂
<クチバ亜科 OPHIDERINAE>
48. *Lygephila vulcana* (Butler)
アサマクビグロクチバ
7. VII. 1989 1♂
49. *Anomis mesogona* (Walker)
アカキリバ
13. V. 1989 1♂
50. *Goniocraspidum pryeri* (Leech)
ブライヤキリバ
18. IV. 1995 1♂
暖帯性の蛾で県南部で採れている。
51. *Calyptra albivirgata* (Hampson)
ハイイロオオエグリバ
30. VI. 1989 1♀
従来オオエグリバと混同されていることが多かったものと思われる。
52. *Adris tyrannus* (Guenée)
アケビコノハ
30. VI. 1989 1♂
53. *Synpoides picta* (Butler)
シラフクチバ
17. VI. 1989 1♂
54. *Synpoides fumosa* (Butler)
クロシラフクチバ
7. VI. 1989 1♂
55. *Mecodina subviolacea* (Butler)
ムラサキヒメクチバ
1. VI. 1989 1♂
西播初記録である。県下では氷上郡¹²⁾、南狭町¹³⁾、西宮市¹⁴⁾で記録がある。
56. *Mecodina nubistigma* (Leech)
シャクドウクチバ
24. V. 1989 1♂, 17. VI. 1989 1♂
57. *Eugrapta igniflua* Wileman & South
カザリツマキリアツバ
1. VI. 1989 1♂
58. *Pangrapta trimantesalis* (Walker)
ウンモンツマキリアツバ
7. VI. 1989 1♂
59. *Pangrapta umbrosa* (Leech)
シロモンツマキリアツバ
24. V. 1989 1♀
但馬地域で記録があるが、西播では初めてである。
60. *Pangrapta pseudalbistigma* Yoshimoto
ツマジロツマキリアツバ
24. V. 1989 1♀, 23. VI. 1989 1♀

- 7.VII.1989 1♀
61. *Pangrapta obscurata* (Butler)
リンゴツマキリアツバ
1.VI.1989 1♀, 17.VI.1989 1♀
62. *Lophomilia polybapta* (Butler)
キマダラアツバ
23.VI.1989 1♀
63. *Gonepatica opalina* (Butler)
フタスジエグリアツバ
23.VI.1989 1♀, 7.VII.1989 2♀
64. *Diomea cremata* (Butler)
ムラサキアツバ
7.VII.1989 1♂
65. *Leiostola mollis* (Butler)
トビフタスジアツバ
23.VI.1989 1♀
66. *Rhesala imparata* (Walker)
マエテンアツバ
28.III.1995 1♂
- <アツバ亜科 HYPENINAE>
67. *Harita belinda* Butler
ナカジロアツバ
28.IV.1995 1♂
68. *Hypena amica* Butler
クロキシタアツバ
1.VI.1988 1♀
69. *Hypena indicatalis* Walker
トビモンアツバ
18.IV.1995 1♀, 28.IV.1995 1♀
70. *Bomolocha stygiana* Butler
ヤマガタアツバ
24.V.1989 1♂
71. *Bomolocha zilla* Butler
シラクモアツバ
24.V.1989 1♀, 7.VI.1989 1♂
これまで県下に記録が見あたらない。
- <クルマアツバ亜科 HERMINIINAE>
72. *Edessena gentiusalis* Walker
マルシラホシアツバ
7.VI.1989 1♂
73. *Edessena hamada* C & R. Felder
オオシラホシアツバ
1.VI.1989 1♂
74. *Hadennia nakatanii* Owada
ヒメハナマガリアツバ
7.VI.1989 1♂
常緑カシ帯の蛾で瀬戸内海沿岸は分布域と思われるが、兵庫県下では初記録である。
75. *Paracolax trilinealis* Bremer
ミスジアツバ
7.VI.1989 1♂
76. *Paracolax preyri* Butler
シロテンムラサキアツバ
30.VI.1989 1♀
77. *Bertula bistrigata* Staudinger
フタスジアツバ
17.VI.1989 1♂
78. *Bertula spacoalis* Walker
シロスジアツバ
17.VI.1989 1♂, 7.VII.1989 1♂
79. *Nodaria tristis* Butler
ヒゲブトクロアツバ
30.VI.1989 1♂1♀
80. *Zanclognatha griselda* Butler
ツマオピアツバ
23.VI.1989 1♂
81. *Zanclognatha helva* Butler
キイロアツバ
24.V.1989 1♀, 1.VI.1989 1♀
82. *Zanclognatha tarsipennalis* Treitschke
ヒメコブヒゲアツバ
7.VII.1989 1♂
83. *Herminia innocens* Butler
シラナミアツバ
13.V.1989 1♂
84. *Herminia arenosa* Butler

ウスキミスジアツバ
30.VI.1989 1♀

以上のように、季節的には春から梅雨期にかけてだけの記録であるが、253種の分布を確認できた。内訳を見ると、シャクガ科が最も多く99種、次いでヤガ科84種、ヒトリガ21種、シャチホコガ科12種などとなっている。シャクガの中ではアオシャクの仲間が19種と比較的多い。ヤガではケンモンヤガ、シタバガ、ヨトウガなど冷温帯の森林に優勢な種が少なく、セダカモクメ亜科にいたっては全く確認できなかった。それにひきかえ、クチバ亜科の小型種が比較的豊富で、常緑カシ類を食樹とする種類も多く、概して暖温帯を生息地とする種類が個体数ともども多いのが特徴である。

この地域の里山から低山地の蛾相を顕していると思われる。また、草本を食する種が多いスズメガ科やコヤガ、ウバ類が少なく、シャクガ、コケガ、クルマアツバの仲間が多いなど、谷間の森林地帯という採集地の環境を反映しているものと思われる。しかしながら、目撃していても採集していなかったり、ごく普通種で当地にも当然生息しているはずであるのに採集できていない種がかなり多いものと思われる。夏以降に出現する蛾とともにさらに調査を重ねる必要がある。なお、小蛾類については若干数採集しているものの、同定が不十分であり今回は割愛している。これもあわせて別の機会に発表したい。

<参考資料>

- 1) 田中 蕃(1967)兵庫県下でマエモンシロオビアオシャクを採集 佳香蝶19(69);39
- 2) 夏秋優・佐々木昇(1983)能勢地方の蛾(Ⅱ)上阿古谷・夏の蛾(続報) Crude(24);1-12
- 3) 藤平 明(1987)南淡の蛾
- 4) 山本義丸(1952)郷土氷上郡の昆虫について NATURA(7);11
- 5) 山本義丸(1956)氷ノ山の蛾について(第二報) 兵庫生物3(3);121-123
- 6) 田中 蕃(1967)神戸市摩耶山に産する大蛾類 佳香蝶19(71);89-104
- 7) 岡村八郎(1987)神戸市摩耶山の蛾類採集目録 てんとうむし(10);37-45
- 8) 登日邦明(1973)淡路島産蛾類分布資料(2) 蛾類通信(73);215-224
- 9) 川副昭人(1987)佐用郡三日月町の蛾覚え書 てんとうむし(10);1-10
- 10) 山本義丸(1955)氷ノ山の蛾について(第一報) 兵庫生物3(1/2);3-6
- 11) 井上 寛他(1982)日本産蛾類大図鑑: 講談社
- 12) 山本義丸(1956)兵庫県氷上郡昆虫目録
- 13) 藤平 明(1975)南淡の蛾(Ⅲ) Parnassius(15);7-12
- 14) 遊磨正秀(1973)六甲山地域の蛾類 I きべりはむし2(1);1-9
(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

神戸市内のマイコトラガ
山口福男

マイコトラガ *Maikona jezoensis* Matsumura を神戸市内で採集したので報告する。

1994年3月20日 1♂ 神戸市中央区諏訪山公園 図鑑などによると本種はかなり珍しいと書かれているが、神戸ではこれまでに松本氏が北区藍那で1986年4月に採集されて本誌15巻1号に報告されている。また1992年3月に奥須磨公園で熊代直生氏により採集された標本を見ることができた。

蛾の場合は蝶ほどに愛好者は多くなく珍種の採集される確率はかなり低い。それにもかかわらず過去10年に3頭採集されていることは、その気になって探せば案外とれる可能性を示唆している。

早春に短期間しか出現せずライトトラップにしかなからないことが、より珍奇化しているのかもしれない。

(YAMAGUCHI FUKUO 神戸市須磨区神ノ谷3丁目6-4)

100年前に発表されていた 神戸・兵庫産糞虫についての文献*

高橋 寿郎

最近筆者は東京の Bauer & Sato Japan 社から100年前(正確にいうと99年)に出版された次の文献を入手することが出来た。

H.D'Orbigny. Synopsiss des Onthophagides
Paléarctiques

Extrait de L'Abeille, tome XXIX, 1898.

タイトルのとおり、旧北区の Onthophagini 類の一覧表というもので、検索表形式で分類・記載をされたものである。発表紙がどういったものであるのか浅学の筆者にとっては初めてのものであった。たまたま手許にあった J.L.Gressitt & J.J.H.Szent-Ivany の Biogeography of New Guinea, Entomology. Pacific Insects Monograph, 18, 1968 の文献解説の初めての所で(p.579), Abeille-L'Abeille, Paris(1864-1945) とあった。

即ち、パリで1864-1945年の間出版されていた機関誌で、そのXXIX巻特別号になるのではと考えるが、どなたか御教示頂ければ幸いである。全部で138p., 収録されている種は147種(*Caccobius* 10種, *Onthophagus* 130種, *Liatongus* 2種, *Onitocellus* 5種)であり、これらを検索表形式で記載文としたもので、図は一つも入っていない。しかしながら、日本産も多く含まれているが、さらに種によっては神戸、兵庫の産地名のハッキリと示されているのがある。即ち、神戸産糞虫の文献としては筆者にとっても初めて見ることの出来た文献であると同時に、この文献によって神戸産が初めて示された種もあるわけで、此処にそれらを紹介しておきたいと考えた。

V.Balthasar が1963年に出版した Monographie der Scarabaeidae und Aphodiidae der palaearktischen und orientalischen Region 2 の中で

は勿論日本産も含まれているのであるが、分布とか産地については Japan とか Japan(Honshu) との表示はあるが、具体的な産地を日本産で示したものはあまりない(例えば, *Onthophagus ohbayashii* Nom. は Hiroshima と産地を示しているが···)。分布を大きく把握しようとしていることは、勿論それはそれでよいのであるが神戸・兵庫産としてみた場合はものたりない。それでもこのシリーズの (1) p.217 にて *Gymnopleurus stipes japonicus* Balth. einem exemplar aus Japan: Mukogawa, Landbezirk Hyogo(Hyogo-ken) beschrieben (Holotypus) といった記録が入っていて驚かされたりする。

さて、ここで紹介する H.D'Orbigny の文献で神戸・兵庫とはっきり産地の示されているものを次に記しておく。9種あり、そのうち6種がこの文献で初めて神戸・兵庫の産地が示された種であり(番号をまるで囲んである種)、その他はこの文献発表までに神戸・兵庫の記録がある種で、その記録を此処では引用したものである。

神戸・兵庫とはっきりと産地を示された種のみ次に記しておく。

p.129. ④. *Caccobius microcephalus* Har. = *C. jessoensis* Har.

マエカドコエンマコガネ

Japon: Tokio(Hilgendorf, d'après Harold), Yokohama(Mellotée, coll. Bedel!), Kobe(coll. P.Nadar!)

p.130. 6. *Caccobius brevis* Waterh.

ヒメコエンマコガネ

Japon: Hiogo, Ohosaka-(D'après la description de Waterhouse)

* 兵庫県甲虫相資料・317

- p.144. ⑫. *Onthophagus ater* Waterh.
クロマルエンマコガネ
Japon: Yokohama(coll. Bedel!),
Kobe(coll. P.Nadar!), Kio-Siou
(dâprès Waterhouse)
- p.145. ⑬. *O. Lenzi* Har. = *O. lenzii* Har.
カドマルエンマコガネ
Japan: Yeso(dâprès Harold), Hio-
go(dâprès Schönfeldti), Kobe
(coll. P.Nadar!), Coŕee, Chine.
- p.146. ⑭. *O. nitidus* Waterh.
ツヤエンマコガネ
Japon: Hiogo(dâprès Waterhouse),
Kobe(coll. P.Nadar!), Nagasaki
(dâprès Waterhouse), ile Ishi-
gaki du groupe des iles Yaeyama
(coll. R.Oberthûr!)
- p.146-147. ⑮. *O. viduus* Har.
マルエンマコガネ
Japon: Osima(coll. R.Oberthûr!),
Yokohama(coll. Bedel!), Kobe(co-
ll. P.Nadar, type et var!), Kio-
u-Siou(dâprès Harold), ile Ishi-
gaki du groupe des iles Yaeyama
(coll. R.Oberthûr var. seulement!)
- p.147-148. ⑯. *O. atripennis* Waterh.
コブマルエンマコガネ
Nord de la Chine: Pekin
Japon: Hiogo(coll. R.Oberthûr!),
Kobe(coll. P.Nadar!), Kio-Siou
(dâprès Waterhouse), ile Ishi-
gaki du groupe des iles Yaeyama
(coll. R.Oberthûr, var. *apicetin-*
tus seulement!)
- p.165. 47. *O. ocellatopunctatus* Waterh.
アラメエンマコガネ
Japon: Hakodate(G.Lewis, coll.
Bedel!), Hiogo(dâprès Waterhou-
se et coll. R.Oberthûr!)

- p.197. 98. *O. japonicus* Har.
ヤマトエンマコガネ
Japon: Yokohama(coll. Bedel!),
Hiogo(dâprès Waterhouse), Oho-
saka(dâprès Waterhouse)

以上のうち、現在兵庫県下にいるのかいないのかわからない種が2種あり、他の種は *Caccobius* 属の2種がわりと採集記録の少ない種であるが、他の *Onthophagus* 属の種はほぼ現在でも注意すれば得られる種と考えられる。

100年前にこのような神戸の糞虫についての知見があったことに驚いている。(1995・X 記)

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

ムナクボハナカムキリの 音水溪谷での記録

田中 稔

ムナクボハナカムキリ *Xenophyrama purpureum* Bates は、原色日本甲虫図鑑(IV)によれば「古い体のしくみをもつ1属1種、……個体数は少なく西南日本及び九州に点々と分布する。……」となっているが、本種を筆者の実弟、田中勇氏が音水溪谷で採集しているので記録しておく。

1♂ 兵庫県宍粟郡波賀町音水溪谷 22.VI.
1994 田中勇採集

同氏によれば、「シコクヒメハナカムキリの調査でカツラのひこばえの見回りを続けていたところ、目の高さで静止している個体をネットインすることができた。また、同所で過去に蜘蛛の巣にかかっている本種を得たことがある。未確認ではあるが、扇ノ山において複数のムナクボハナカムキリを蝶屋さんが採集しているが未発表と思われる。」とのことである。

記録の報告を委ねられた田中勇氏にお礼を申し上げます。

(TANAKA MINORU 西宮市西軒町8-7)

兵庫県版レッドデータブックについて(2)

近藤伸一

前回(23-2 1995.11)、兵庫県版レッドデータブックの昆虫類の中からトンボ、カメムシ、コウチュウ、チョウの4目148種を紹介したが、今回は残りの12目34種を紹介する。

なお記載の方法は前回と同じであるが、概略のみ説明する。

I 記載方法

1. 貴重性評価の区分

- (1) 今は見られない：今回は該当なし。
- (2) Aランク：日本版レッドデータブックの絶滅危惧種に相当。今回は該当なし。
- (3) Bランク：日本版レッドデータブックの危急種相当
- (4) Cランク：日本版レッドデータブックの希少種相当
- (5) 要注目種：最近減少の著しい種、優れた自然環境の指標となる種、特殊な分布をする種等の貴重種に準ずる種
- (6) 地域限定貴重種：県下全域で見ると貴重とはいえないが、特定地域ではA、B、C、要注目のいずれかのランクに該当するもの。

2. 選定理由

[a b c d e f]の6パターンに分類

- a -個体数が近年激減- 人為による影響
- b -生息環境激変、失われている- 人為による影響
- c -わずかの面積しかない環境又は開発による影響を受けやすい環境にあるもの-
- d -分布が局限されている- 学術性の観点
- e -南限、北限など生息地が分布の限界- 学術性
- f -個体数が極めて少ない- 学術性

3. 県内分布

神戸・阪神 東播磨 西播磨 但馬 丹波 淡路をそれぞれ(阪東西但丹淡)で表示し、

(阪東西但丹淡)は1985年以降に確認できた地域(阪東西但丹淡)は1984年以前にしか確認されていない地域。

4. 日本版レッドデータブックに掲載されている種の表示

和名の前に次の記号で表示

*R：希少種

II 種別の選定結果

1. カゲロウ目

<u>Cランク</u>	選定理由	県内分布
イソタマシラカゲ	[f]	(西但)

要注目

トゲエラカゲ	[b d]	(西)
--------	---------	-------

2. カワゲラ目

<u>Cランク</u>		
ヒゲイカゲラ	[cd f]	(但)
ミヤマキカゲラ	[b d]	(西但)

要注目

ヤマクロカゲラ	[d]	(西但)
---------	-------	--------

3. ゴキブリ目

地域限定貴重種 淡路 Cランク

オコキブリ	[]	(阪東西但 淡)
本土亜種		

4. カマキリ目

<u>Cランク</u>		
ヒナカマキリ	[d f]	(阪 西但 淡)
ウスバカマキリ	[cd f]	(東)

5. バッタ目

Bランク	選定理由	県内分布
ハマス*	[cd]	(淡)
カヤコオロキ*	[bcd]	(阪 但 淡)
イソカネタタキ	[cd f]	(淡)
ヤマトマダラハ* ッタ	[cd f]	(淡)

Cランク

クチキコオロキ*	[cd f]	(西但 淡)
アジシ* マカネタタキ	[d]	(但 淡)
コハ* ネササキリ	[a]	(西但)
カワラハ* ッタ	[c f]	(但)

要注目

ヒメクダ* マキモト* キ	[e]	(阪 西 淡)
---------------	-------	-----------

6. ナナフシ目

Cランク

トゲ* ナナフシ	[d f]	(阪 西 丹 淡)
----------	---------	-------------

7. ガロアムシ目

Cランク

カ* ロアムシ	[b]	(西但)
---------	-------	--------

8. アミメカゲロウ目

Cランク

オオウスハ* カゲ* ローウ	[d f]	(西 淡)
キハ* ネットンホ*	[d f]	(東西)

地域限定貴重種 淡路 Cランク

オオツトンホ*	[f]	(阪 西但 淡)
---------	-------	------------

9. ハチ目

Cランク

ウマノオハ* チ	[a f]	(阪 西但 丹)
オオホシオナカ* ハ* チ	[a f]	(阪東西但 丹 淡)
ミス* ハ* チ属	[b f]	(西但)
ハナダ* カハ* チ	[cd]	(淡)
ヤマトリモンソナハ* チ	[de]	(淡)

10. シリアゲムシ目

Cランク

イシキカ* ガンホ* モト* キ	[d f]	(淡)
------------------	---------	-------

11. ハエ目

Cランク

ミカ* カ* ガンホ*	[d f]	(阪 西但 淡)
-------------	---------	------------

12. トビケラ目

Bランク

オンダ* ケトビ* ケラ属	[cde]	(西但)
---------------	---------	--------

Cランク

コガ* タカノコヒトビ* ケラ属	[cd]	(西但)
テオノカクツツトビ* ケラ	[cd]	(西但)
R カツムリトビ ケラ	[c]	(阪 西但 丹)

地域限定貴重種 氷ノ山 Cランク

ユク* リトビ* ケラ属	[cd]	(西但)
--------------	--------	--------

氷ノ山で確認されている未記録種

以上

今回、兵庫県版レッドデータブックの昆虫類を紹介するにあたり、県内で記録されている昆虫の種類数を調べてみたが、まとまった報告が極めて少なく断念した。県内で記録された昆虫の種類数を調査されている方はぜひ発表して頂きたい。

日本版レッドデータブックの昆虫類概説によると、日本の昆虫類の調査研究は歴史が浅くチョウ、トンボ、セミ、農業害虫の一部、衛生害虫の一部を除くとほとんどが不完全な状態で、28,720種しか記録されていないそうである。

<参考文献>

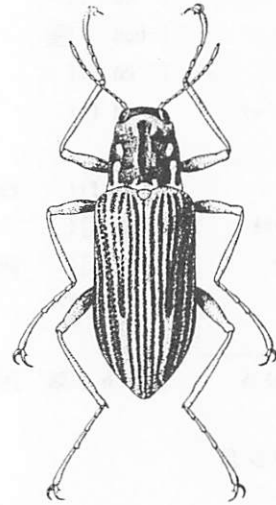
- (1) 兵庫県保健環境部環境局環境管理課(1995) 兵庫県の貴重な自然－兵庫県版レッドデータブック－ 1-129.
- (2) 環境庁自然保護局野生生物課(1991) 日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－ 無脊椎動物編 7-116.
(KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

アヤスジミゾドロムシ氷上郡柏原に産す*

高橋寿郎

筆者は本誌上に「兵庫県の水棲甲虫に関する文献目録(1)」なる拙報を発表させて頂いた(Vol.23, No.2, 1995). ところで, この拙報を読まれた山本義丸氏からお手紙を頂いた(1995年11月28日付).

それによると拙報で取り上げた1952年発表の山本義丸氏の報文「兵庫県(丹波国)氷上郡より記録する水棲甲虫」の中でキアシホソドロムシがよくわからないと記したことに関連して, 当時氷上郡の水棲甲虫の多くは神谷一男・中根猛彦両博士に同定を依頼しておられ, このキアシホソドロムシはその後山本氏が発表になった「兵庫県氷上郡昆虫目録」(1958)の中で言及(p.83)しているように, このドロムシを神谷一男博士はキアシホソドロムシ *Stenelmis yamamotoi* Kamiya として記載の予定とされていたのであるが, 神谷博士の逝去により実現せず, そのままになってしまっている. 誰か他の人によって記載命名されていると思われるが, 手許にその時の標本の一部が若干あるが進呈するといつて 5exs.(Kaibara, Hiogo l. IX. 1949, Y. Yamamoto leg. 3exs., 不完全品. カビがどれにも生えていた)送って来られた. はたして何というドロムシなのか筆者も全く門外漢のグループであるし, 一寸わからなくどなたか専門の方に同定を依頼しなくてはと考えたが, かなり特徴的にハッキリした形態を有しているので, 或いは名前がわかるかもと手許に所有している貧弱な文献を調べているうちに, これはアヤスジミゾドロムシ *Graphelmis shirahatai* (Nomura, 1958) と同定すべきではないかということになった. 全国での記録がよくわからないが, 佐藤正孝博士によると稀種になるようであるが, 一方氷上郡では当時かなり採集されたようなので(現在いるかどうか疑問), 此処に兵庫県産のドロムシとして記録すると共に



Graphelmis shirahatai (Nomura, 1958)
アヤスジミゾドロムシ (T. Sekiguchi del.)
Entom. Rev. Japan 9(2), pl. 8, 1958 より

この虫についての若干の説明をさせて頂きたいと思う.

浅学未熟の筆者のこと故, 大きな誤りをしているかもしれないが御教示, 御指摘頂ければ幸いです.

本種は故野村 鎮氏によって記載された種で, 白畑孝太郎氏が山形県 Jimmachi (神町) で採集された 1 ♀ をタイプとして, *Stenelmis shirahatai* Nomura なる学名で記載(当初和名はナシ), パラタイプに山形県山形市産の 1 ex. (採集者 長谷川氏) がふくまれていた. 原記載には故関口俊雄画伯による美しい全形図(体長 3.3mm)がプレートとしてついていてこのドロムシの特徴もよくわかる. 記載はかなり詳しい記述である. 野村氏は1963年にはカラーで図説(このとき初めてアヤスジミゾドロムシなる和名を使用), 「前胸背には基部の2縦隆の前方に小瘤があり, 上翅の第1点刻条は基部

*兵庫県甲虫相資料・318

で2又せず、第5間室も隆起しない。7~8月。分布、本州。体長、3.3mm”とその特徴を記している。

1977年には佐藤正孝博士がヒメドロムシ科の日本産の目録を発表、その中で原記載での *Stenelmis* 属から *Graphelmis* 属の種として取扱っている。

1985年には、同じく佐藤博士がカラーで図説、その中で”3.4-3.7mm。触角の第11節は前2節を合わせたものほぼ同じ長さ。上翅はやや長い細毛を装い、第4と第5点刻は中央で合一する。まれ。本州”と記されている。

以上の図説並びに記載によるそれぞれの特徴などの点から(送られてきた標本の体長は3.4mmであった)、山本義丸氏がわざわざ送ってこられたドロムシはアヤスジミゾドロムシ *Graphelmis shirahatai* (Nomura, 1958) と同定した次第である。

せっかく神谷博士が *Stenelmis yamamotoi* Kamiya キアシホドロムシとして記載発表されようと予定しておられたのに残念な結果になってしまった次第である。ただこの *G. shirahatai* の方も非常に稀な種のように、勿論筆者の貧弱な所有文献からは他の産地の記録が見出されず佐藤博士もまれであると記されているように、現在山形県以外の産地が知られていないのではないかと考えられている。ただ初めに記したように山本氏が採集さ

れた時は、かなりの個体を採集しておられるようで、このドロムシが兵庫県下からの初記録になると同時に、現在はたして県下の他の地域での産地が無いのかどうか調べてみる必要があるように思われる。どちらにしてもこの大変珍しいそして興味あるドロムシが、兵庫県下から記録出来たことはうれしいことで、この機会を与えて下さった山本義丸氏に厚く御礼を申し上げさせて頂きたいと思っている。

<参考文献>

- S.Nomura (1958) Drei neue *Stenelmis*-Arten aus Japan (Coleoptera, Elmidae)
Entom. Rev. Japan 9(2):41-45, pl.8.
野村 鑽(1963) 原色昆虫大図鑑 第2巻(甲虫篇) pl.73, f.7, p.415. (北隆館・東京)
M.Sato (1977) 日本産甲虫目録 No.9 ヒメドロムシ科 p.3 (甲虫談話会・東京)
佐藤正孝(1985) 原色日本甲虫図鑑(II)
pl.80, f.9, p.437. (保育社・大阪)
佐藤正孝(1989) 日本産昆虫総目録 I (p.318)
(九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター共同編集出版。九州)
(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

フタイロカミキリモドキの分布*

高橋寿郎

姫路昆虫同好会結成20周年記念特別号会誌”遊蟲千年”(XI.1995)誌上に赤穂市坂越湾に浮かぶ小島である生島に、相坂耕作氏他3氏が訪問、この島の昆虫調査をされた報文が発表されていた。

時間的制約があったのか調査というところまでにはいたっていないと思うが、初めて原生林の同

島の昆虫相の一端がわかったことは大変貴重であると共にうれしいことである。今回の記録の中で、フタイロカミキリモドキ *Oedemeronia sexualis* (Marseul, 1876) がある。この種は南方系の種であり、兵庫県下での記録は3例目である。ところで、この種の分布というのは今まで日本にて発表されている代表的な図鑑目録を見てみると(河野広道,1950. 中根猛彦,1956,1963. 宮武睦夫,1985. 佐藤正孝,1989)、どれも申し合わせたようにこの種の分布は四国、九州、対馬、五島列島、屋久島、トカラ諸島、奄美大島、沖縄、石垣島、西表島、与那国島となっていて、本州での分布というのは

*兵庫県甲虫相資料・319

全く無い。ところでこの種の兵庫県下の記録は次の3例がある。即ち、洲本市由良町〔堀田, 1978〕, 飾磨郡家島〔畑中・辻, 1974〕, 赤穂市生島〔相坂ほか, 1995〕。これらは本州でないといえれば本州ではない。いずれも瀬戸内海に存在する島々である。それ故分布地に本州を掲げていないといえればそれまでであるが、行政区画でいえば兵庫県に所属する。本州といった表現がいけなければ上記地点は分布に加えて貰わねば困るということを主張しても良いのではないかと思う。或いは兵庫県の南側海岸線沿いに本種を見出すことは不可能なことではないと考えている。現在の“毒グモ”騒ぎの例にも見られるように、南方系の種であっても結構日本に定着しているものは他にも多くいることだと考えている。直接我々と関連がないこの虫

であるが、安住の地を本州の暖かい地域に求め定着することはあり得ることではないだろうか。

<参考文献>

河野広道, 1950 日本昆虫図鑑
f.3345, p.1165 (北隆館・東京)

中根猛彦, 1956 日本の甲虫(30)
新昆虫 9(1):55-57.

中根猛彦, 1963 原色昆虫大図鑑 第2巻 (甲虫篇) (北隆館・東京)
pl.130, f.20, p.260.

宮武睦夫, 1985 原色日本甲虫図鑑(III)
pl.69, f.22, p.408. (保育社・大阪)

佐藤正孝, 1989 日本産昆虫総目録 I . p.410.
(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

コガネムシの食草と集団行動に
ついての報告

新家 勝

コガネムシは、原色日本昆虫大図鑑(北隆館昭和38年4月10日)に「6~7月に多く、種々の広葉樹の葉を食害する」と記されているとおり、多種の植物の葉を食害する。

ところで、筆者は1994年6月17~18日に西宮市田近野町の武庫川川原で、多数のコガネムシがメドハギ(マメ科の多年生草本)に集まり、集団で葉を食べるとともに交尾しているのを目撃したので報告する。この場所は武庫川の中洲の痩せ地で、ノイバラ、ヨモギ、マツヨイグサ類などが生えており、メドハギも多いが、この時期、普通はノイバラが食草となり、一本のノイバラに数頭がいて葉を食べているのがよく見られる。当日は、まだ十分に成長していない、60cm程度の草丈のメドハギ10数本に、10~20頭の本種が集まっていた。当

年は多く発生したようであるが、これまで食草とは思っていなかったメドハギに、あまりにも多く集まったことに興味をもった。



(NIINOMI MASARU 宝塚市光明町8番57号)

ウラギンシジミの越冬

近藤伸一

ウラギンシジミはネパール付近から中国大陸、インド南部、インドシナ、台湾など広く東アジアの照葉樹林帯を主な生息地とし、福島県付近が生息地の北限となっている。冬季は常緑広葉樹の葉の裏で成虫越冬することが知られている。

昨年暮れに、自宅(神戸市西区)の生垣でウラギンシジミが越冬しているのを、生垣を剪定していた家人が見つけた。このウラギンシジミはアラカシの葉の茂みの奥で越冬していたのだが、外側の葉を刈り取られたために、まともに風雨にさらされる状態になっていた。翅を摘んで軽く引っ張ったが、葉から離れなかったようで、かなりしっかりとしがみついていたようである。

越冬の様子は、地上1.5mの高さにあるアラカシの葉の裏に、頭部を北東方向に向けて、触角を閉じた翅の間に挟みこみ、前脚は折りたたんで4本の脚(中、後脚)でぶら下がるように張り付いていた。

写真を何回か撮って気付いたのだが、アラカシの葉は風で常時小刻みに揺れており、シャッターチャンスは意外と少ない。ということは広い面積の翅が常に風圧を受けているわけで、大きな翅を小さな4本の脚で長期間支えられているものと感心させられる。その後特に十分な観察せず出勤時にチラリと見る程度であった。

今年の1月末から2月2日にかけてこの冬最大の寒波に襲われ県北部は大雪となった。神戸でも気温は-2.3℃まで下がり冷たい風が吹き荒れたがウラギンシジミは同じ体勢で耐えた。

2月3日は寒波が去り暖かい日となった。日光が射し始めた午前10時過ぎ、ウラギンシジミが盛んに口吻を動かしているのに気づいた。これまでずっと折りたたんでいた前脚を伸ばして6本の脚で体を支え、口吻の先は葉面(葉裏)をなめるように前後左右移動させ、遂には口吻先は葉表までに

達し、葉表の端をまさぐり、また葉裏に戻り……という行動を約1時間繰り返した(当日の10時の気温は直射日光下で12℃)。

翌日(4日)も暖かい日であったが、ウラギンシジミは前脚を折りたたんだいつもの4本脚で、口吻を伸ばすこともなく、その後11日までは朝晩2回(8時前と23時前後)の観察だったが4本脚の普段の越冬体勢であった。

2月12日、8時に見た時は普段の4本脚だったのに13時に見ると右前脚を伸ばして葉を掴み5本脚となっていたので観察を始めた。30分後も同じ体勢、14時には右前脚は葉から離れていたが伸びた状態で、その後15時30分まで同じ体勢であった。

17時30分には伸びていた右前脚が90度に折り曲げられ、21時でも同じ状態であった(天候は曇り無風、気温は13時:12℃、14~16時:10℃、21時:6℃)。

翌13日の7時には両前脚をしっかりと折りたたみ、普段の4本脚状態に戻っているのを確認したが、14日の朝姿が無くなっていた。

ウラギンシジミが消えた2月13~14日は昼間汗ばむほどの季節外れの暖かさで、13日には夜(22時)でも12℃あった、その後しばらく温暖な日が続いたが、2月17日には寒さが戻り、当地でこの冬初めての積雪を見た。ウラギンシジミは自発的に葉から離れたのか、力尽きて吹き飛ばされたのかは不明だが、どこか別の場所で無事越冬したのと思いたい。

(KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

イシガケチョウの採集報告

山口福男

編集子の要望に応じ私の採集記録を報告する。

10・12・1989 1♀ 神戸市中央区諏訪山公園

このことについては本誌第23巻第1号25ページに報告した。採集した日は穏やかな晴天の10時頃

で気温は15度以上あったと思う。越冬前の新鮮な個体で、飛翔はとても緩やかであり、よほど近接しない限り飛び立たず、逃げてみてもすぐ近くに静止した。標本は私が保存している。当時撮影した写真はインセクトリウムVOL28, No.1(1991)の表紙に掲載されている。

4・6・1995 1♂ 神戸市中央区諏訪山公園

前回と全く同じ場所で新鮮な雄、当日は晴天で飛来した時刻は12時、気温は25度を超過しており活動が活発でネットするのがようやくであった。標本は私が保存。なお諏訪山公園にはイヌビワが豊富にあるので幼虫の調査を数回試みたが発見できなかった。

(YAMAGUCHI FUKUO 神戸市須磨区神ノ谷3丁目6-4)

アオドウガネの食草についての

報告(統報その5)

新家 勝

アオドウガネも雑多な植物の葉や花を食べるので、興味を持ち、これまでに12種の食草を本誌で報告したが、今年(1995年8~9月)は、宝塚市光明町の自宅でタニウツギの葉を食べていたのと宝塚市美幸町でトウネズミモチの葉を食べていたのを目撃したので報告する。

(NIINOMI MASARU 宝塚市光明町8番57号)

ヒロヘリアオイラガ幼虫の

食樹についての報告

新家 勝

ヒロヘリアオイラガが阪神間で大発生して話題になったのは、1984年頃だったと記憶する。日本産蛾類大図鑑(講談社 20, Sept. 1982)には、「従来、鹿児島市内だけで採集されていたものが、1979年ごろから大阪や西宮の市街地および北九州

で急に発生したもので、東海地方まで北上している」とあり、「幼虫は、サクラその他いろいろな樹木の葉を食べており、海外では昔からかなりの雑食性であることが知られていた」と記されている。1984年に宝塚市美座二丁目の自宅でも発生し、これまでからいるアオイラガの食べるヤナギ類やカキなどではなく、ツバキ、エノキ、ハナスオウの葉を食べていた。雑食性と聞いていたので、食樹の種類を調べてみようと思ったが、その後、自宅での発生はなくそのままになっていた。今年(1995年8~10月)、宝塚市光明町の自宅とその付近で、多数発生し、サクラ、ボケ、イロハモミジ、ナラガシワ、アベリア、タニウツギ、ヤマボウシ、カキの葉を食べているのを目撃した。

限られた地域での観察結果であるが、前記11種の植物が食樹となったことを報告する。また、今後とも注意して観察し、さらに多くの食樹を確かめたい。

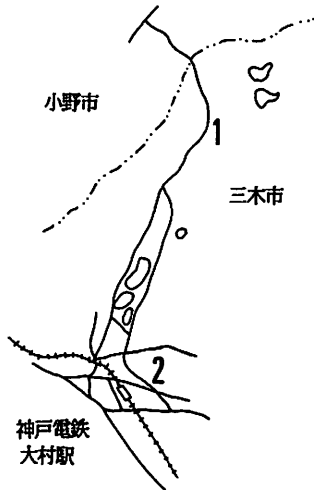
(NIINOMI MASARU 宝塚市光明町8番57号)

ホシミスジの分布拡大例

永幡嘉之

ホシミスジ *Neptis pryeri* は、兵庫県南部において比較的近年に分布を拡大した種としてよく知られている。都市部やその周辺では、庭木としてよく利用されるユキヤナギ、シジミバナ、コデマリなどを食樹としている。本種が、本来分布していなかった小さな谷間に分布を広げる様子を実際に観察したので報告する。

観察したのは兵庫県三木市大村である。このの蝶相については過去に筆者が報告したことがあるが、長さ2kmほどの浅く小さな谷の奥に、金剛寺というお寺がある(1)。そこには多くのユキヤナギやシモツケが食栽されているにもかかわらず、1984年から1990年まで7年間住んでいた間に、本種を目撃したことは一度もなかった。この谷の入



り口付近(2)には本種は以前から生息していたようで、1984年9月、当時通っていた平田小学校のユキヤナギの並木で成虫を目撃している。ここから金剛寺までは約2km、間には谷に沿って狭い耕作地が続くほか、人家が数カ所にある。

1992年6月20日、私はすでに三木を離れていたが、久しぶりに大村を訪れてみた。その際、同行の芝直之君が本種の1♂を採集した。その後、1993年8月11日にも新鮮な複数の個体が飛び交っているのを目撃した。最近はあまり足を運ぶことができないているが、数回の観察の状況から、発生するようになったものと推察した。約2kmの分布拡大に、少なくとも8年を要したことになる。

本種の成虫を観察していると、食草への執着が非常に強く、発生地を遠く離れた場所で目撃することは稀である。市街地では近距离に連続的に食草が存在する場合が多いが、農村部や山間部では食草の存在が不連続で飛石的になる。このような場所では、本種の分布拡大能力はそれほど強くないのではないだろうか。また、起伏のある地形も移動を妨げる大きな要因となっていると考えられる。

播州平野では本種は普遍的に分布しているように思われがちであるが、上記のような例もあり、また筆者が三木市で蝶を採集していた1986年頃には、市内各地では個体数もそれほど多くはなかつ

た。現在ではどのような状態になっているのだろうか。

<参考文献>

永幡嘉之(1989) 三木市大村の蝶相 釜城生物1:1 8-58

永幡嘉之(1995) 但馬の蝶3題 IRATSUME 19:1-3 (NAGAHATA YOSHIYUKI 伊那市西箕輪2771-4-13)

ルイスクビナガハムシの採集記録

永幡嘉之

ルイスクビナガハムシ *Liltoecris lewisii* の兵庫県下における採集記録は高橋(1995)によりまとめられているが、筆者もいくつか採集しているので報告しておく。

養父郡関宮町氷ノ山 氷ノ山越付近 alt.1,220m

1ex., 9.VI.1991

養父郡関宮町氷ノ山大平頭 alt.1,150m

1ex., 27.VI.1993

美方郡村岡町小城 alt.720m

1ex., 10.V.1993

美方郡村岡町本谷奥 alt.600m

1ex., 10.V.1994

美方郡温泉町扇ノ山小ツッコ alt.1,160m

1ex., 30.V.1994

本種の食草と推定されるユリ科の草本にはマイヅルソウ、ユキザサ、チゴユリなどがあり、マイヅルソウは分布が限られるが、他の2種はブナ帯を中心に広く分布している。上記採集個体はいずれも草上に静止中のものであった。

なお、長野県飯山市では、雪どけ直後にブナ林に囲まれた湿原のスゲ類と思われる単子葉植物に非常に多くの個体が集まり、後食を行うのを観察している。県内ではブナ林の林床に生息する種であると考えていたが、機会があれば湿地も調べてみたい。

<参考文献>

高橋寿郎(1995) ルイスクピナガハムシの分布
 きべりはむし23(2):29-33.
 (NAGAHATA YOSHIYUKI 伊那市西箕輪2771-4-13)

コオイムシ

三木市大村 4exs., 8.X.1995 永幡
 美方町神場 18exs., 6.XI.1994 永幡

オオコオイムシ

豊岡市三宅 1ex., 10.X.1994 永幡
 浜坂町七釜 3exs., 16.X.1994

永幡・日暮卓志

村岡町相岡 3exs., 24.XI.1994 永幡

但馬ではオオコオイムシは各地に普通であるが、
 コオイムシと同じ池で採集したことはない。両種
 の種間関係など、興味あるところである。

(NAGAHATA YOSHIYUKI 伊那市西箕輪2771-4-13)

コオイムシ, オオコオイムシの
 採集記録

永幡嘉之

本誌には最近コオイムシ類の採集記録の報告が
 いくつか見受けられるので、筆者の手持ちの記録
 も報告しておく。

きべりはむし 第23巻 第3号 正誤表

兵庫・神戸を原産地とする甲虫

Page	位置	誤	正
2	4行目 7行目	オオマルクピオサムシ フタモンマルクピオサムシ	オオマルクピゴミムシ フタモンマルクピゴミムシ
3	下から10行目	フトクチヒゲヒラタムシ	フトクチヒゲヒラタゴミムシ
4	下から12行目	commoe	common
5	6行目	<i>Crossoglossa</i>	<i>Glossaglossa</i>
6	7行目	Probabry	Probably
27	16行目	Tuyama	Yuyama
36	7行目	脱落	Allotype, 1ex., Sasayama Hyogo Pref. 28.June.1952, T.Nakane leg.

兵庫県産甲虫類に関する文献目録追加篇 II

Page	位置	誤	正
50	3行目	田井畑	多井畑
55	19行目	Palaarktischen	Palaarktischen
56	下から21行目	小林桂介	小林桂助
57	下から3行目		文献番号1625が抜けている 全体を右にズラす
60	8行目 16行目 17行目	(8) 阪神間でカミキリ 珍稀なる種	(8) (Sci. Nat.) 阪神間でのカミキリ 珍稀な3種

県関係文献紹介

兵庫県 淡路島南部地域学術調査報告書 B5, 103p. 1973年3月

いささか古い文献であるが、ごく最近東京の井上書店より入荷したがいらぬかとの連絡があったので、送って貰った。例のごとく、せつかく故中西 哲先生が中心になってまとめた報告書であるのに、こと昆虫に関しては真にお粗末な報告で、昆虫の調査なんか全くやっていない様子で、この様な報告書を提出される神経に驚かされる。尤もお役所の調査なんて所詮この程度のものであり、税金の無駄遣いといわざるを得ない。

遊蟲千年 姫路昆虫同好会結成20周年記念 会誌てんとうむし特別号 (1995年11月刊)

昨年(1994)姫路サロンニュース100号記念特別号として遊蟲千年が出版されたが、今回は上記のような記念号として遊蟲千年の第2号が出版された。写真が入っている頁がこの程度の紙で印刷されると、裏が写って見にくく残念である。内容は色々の記録もあれば、雑報的なものもあり、紀行文もあつたりとにかく面白い。これだけの頁数の本をこしらえるのは大変だったであろうと思うが、甲虫についてのみの報文を見せて貰ったところでは、ミスプリント、再同定の必要なもの等々が見られた。

ナガハムシダマシはハムシダマシ科に(ハムシ科の種ではない)してほしい。次回からは 姫路昆虫同好会の会誌として出版されるようである。

県関係・学会誌・同好会誌・連絡誌

(X・1995～III・1996)

自然とともに(兵庫県・環境管理課・林務課) No.31(X.1995) No.32(II.1996)

混蟲ずかん(但馬むしの会連絡誌) No.51(X.1995) No.52(XI.1995) No.53(III.1996)

ハーモニー(人と自然の博物館ニュース) No.11(X.1995) No.12(I.1996) No.13(III.1996)

Crude(大阪昆虫同好会々誌) No.40(XI.1995)

のせ(大阪昆虫同好会連絡誌) Vol.24, No9～13(1995)

姫路サロンニュース(姫路昆虫同好会) No.113, No.114(XI.1995) No.115(II.1996)

兵庫陸水生物ニュース(河原版) No.6(XI.1995)

兵庫生物ニュース(兵庫県生物学会) No.24(XI.1995)

人と自然(県立人と自然の博物館) No.5(March.1995) No.6(September.1995)

交 換 誌

すずむし(倉敷昆虫同好会々誌) No.129(II.1996)

KURAKON(倉敷昆虫同好会連絡誌) No.35(II.1996)

すかしば(山陰むしの会々誌) No.43/44(I.1996)

いずも虫だより(山陰むしの会連絡誌) No.72,73(IX.1995, I.1996)

FUTAO(フタオ会) No.21,22(Jan.1996, Mar.1996)

編 集 後 記

きべりはむし第24巻第1号をお届けします。今回はごらんの通り50頁にも及ぶ盛況ぶりで、内容も各分野にわたっており、大変充実してきました。編集担当者のめざすところの「多くの人に親しまれ、読んで面白く飽きさせない」という同好会誌の理想像の姿に近づきつつあり、大変うれしく思う次第です。原稿をお寄せいただいた皆様方、大変ありがとうございました。

第23巻第2号と今回の2回にわたって「兵庫県版レッドデータブック」の紹介をしてきましたが、その分布状況や生態など、一部を除きほとんど判っていないというのが実状です。ここに登場した種でさえ、記録の集積が不十分なものが多く、またこれ以外にも危急種、希少種に相当する種があるのかも知れません。

兵庫県の昆虫相を解明するためには、多くの人のデータを集積し、情報を共有化することが必要と思われます。そこで、本誌のメインテーマの一つとして、紹介した兵庫県版レッドデータブックに名を連ねる虫たちに関しての記事をお待ちしております。採集データの紹介、生態の研究成果、採集記など、どんな情報でもかまいません。

今年も異常気象の様相です。4月中旬のある日、何年かぶりに黒田庄町のギフチョウのふるさに行ってみました。前日までは3月前半なみの寒さが続き、桜の花やっと5分咲きでギフチョウの姿は見かけることができませんでした。西脇市の産地へも寄りましたが結果は同じことでした。冬が寒いのはいいのですが、春の訪れがこう遅いと虫たちも調子が狂うのではないかと少々心配です。さて、今年はどうな年になることでしょう。

今回は11月の発行です。原稿の締切は9月末日とさせていただきます。奮って御投稿下さい。

(編集担当：近藤伸一・高島昭)

きべりはむし 第24巻 第1号
1996年5月25日発行

発行：兵庫昆虫同好会
〒652 神戸市兵庫区氷室町1丁目44 高橋寿郎方
振替 01170-3-26646

編集：近藤伸一・高島昭
原稿送付先 〒671-22 姫路市書写2542-2 高島昭宛

印刷：岩峰社

目 次

兵庫県の水棲甲虫に関する文献目録(2)……………高橋寿郎 (兵庫県甲虫相資料・314)	1
オオセンチコガネとセンチコガネ —兵庫県での分布を中心として—……………高橋寿郎 (兵庫県甲虫相資料・315)	7
兵庫県のスジボソヤマキチョウ……………広畑政巳	14
オオルリボシヤンマの採集記録……………蛭田永規	18
北摂周辺のトゲアシクビボソハムシとスゲクビボソハムシ 森 和夫	19
諏訪山公園の蝶(追加その1)……………山口福男	23
オオクワガタをめぐりて……………高橋寿郎 (兵庫県甲虫相資料・316)	24
相生市三濃山麓の蛾(1)……………高島 昭 (兵庫県蛾類分布資料・4)	27
神戸市内のマイコトラガ……………山口福男	39
100年前に発表されていた神戸・兵庫産糞虫についての文献 (兵庫県甲虫相資料・317)……………高橋寿郎	40
ムナクボハナカミキリの音水溪谷での記録……………田中 稔	41
兵庫県版レッドデータブックについて(2)……………近藤伸一	42
アヤスジミソドロムシ氷上郡柏原に産す……………高橋寿郎 (兵庫県甲虫相資料・318)	44
フタイロカミキリモドキの分布……………高橋寿郎 (兵庫県甲虫相資料・319)	45
コガネムシの食草と集団行動についての報告……………新家 勝	46
ウラギンシジミの越冬……………近藤伸一	47
イシガケチョウの採集報告……………山口福男	47
アオドウガネの食草についての報告(統報その5)……………新家 勝	48
ヒロヘリアオイラガ幼虫の食樹についての報告……………新家 勝	48
ホシミスジの分布拡大例……………永幡嘉之	48
ルイスクビナガハムシの採集記録……………永幡嘉之	49
コオイムシ, オオコオイムシの採集記録……………永幡嘉之	50
きべりはむし第23巻第3号正誤表……………	50
県関係文献紹介……………	51
県関係・学会誌・同好会誌・連絡誌(X・1995~III・1996)……………	51
交 換 誌……………	52
会員異動……………	52